

兵庫県立篠山鳳鳴高等学校

創立百四十周年記念誌

目次

挨拶	2
祝辞	3
校章・校歌・校旗	
鳳鳴中学校	6
篠山高等女学校	7
篠山高等学校	8
篠山鳳鳴高等学校	9
校内風景	10
140年のあゆみ	12
丹波篠山文化会議	24
大館鳳鳴高校との交流	26
新聞掲載	27
本校の現況	28
寄稿	34
生徒会長より	43
同窓会この10年	44
PTA この10年	45
創立140周年記念事業一覧	46



創立140周年記念誌発刊にあたって

校長 岸田吉明

本校創立140周年として大きな歴史の節目を刻むことは、同窓生のみならずはもとより生徒・教職員・保護者などが互いの連帯感をたかめる機会であると思います。その記念事業の一環として「創立140周年記念誌」の刊行をみますことは誠に喜びにたえません。

明治9年に旧篠山藩主青山家21代当主青山忠誠公が福沢諭吉翁の協力を得て、「郷土の人材育成」の意志に基づき、春日神社境内に設けられた「篠山中年学舎」を前身とする兵庫県立鳳鳴中学校と、明治45年創立の多紀郡立高等女学校を前身とする兵庫県立高等女学校が、戦後の学制改革により合併して兵庫県立篠山高等学校となりました。昭和30年に「鳳鳴」の名を復活し、校名を兵庫県立篠山鳳鳴高等学校と改め、現在に至っております。この間本校を巣立ってゆかれた卒業生は実に27,000名以上にも達し、国や地域社会に多大な貢献をされてきました。この創立140年という記念すべき年に、本校の建学の精神を基点に過去の歴史を振り返り、将来に向けて確かな展望を抱き、本校教職員、生徒一人一人が本校の使命を再確認することは極めて重要なことと考えております。

さて、これからの社会は、情報通信技術の発達等によるグローバル化、少子高齢化による生産年齢人口の減少、絶え間ない技術革新等により、社会構造や環境は大きな変革が起きていきます。このような社会において、個人と社会の豊かさを追求していくためには、一人一人高い志や意欲を持って自立した人間として、他者と協働しながら、未来を切り拓いていく力を身につけ、それらを原動力とし新たな価値を生み出していくことが必要となります。

本校では、現在の変化の激しい社会を生き抜くため、創立以来「一以貫之」という建学の精神をモットーとし、生徒信条、「勉強第一」、「正義の実行」、「身体の強健」のもと、生徒を主体に考え、あらゆる機会が生徒が活躍できる場面を設け、夢や希望を持ち、自らが課題をみつけ、自らが解決していく力をつけ、個々の能力を最大限に伸ばし、地域で貢献する人材は勿論のこと、世界規模で物事を考え、国際社会で活躍できる人材の育成を目指しています。そのため、少子化により生徒数は減少していますが、活気ある学校生活が送れるよう、全教職員が一丸となって取り組んでおります。

私たちは、本校創立時の原点に戻り、「郷土の人材育成」のために、同窓生の皆様方が築きあげられてきた歴史と伝統に、さらなる伝統の創造に向かって、地域に根ざし地域から信頼される学校づくりにこれからも邁進していく所存でございます。

関係者のみなさまには、今後とも本校へのご支援、ご協力を賜りますようお願い申し上げます。本誌刊行の感謝の言葉といたします。

創立140周年に寄せて

兵庫県教育長 高井 芳朗



兵庫県立篠山鳳鳴高等学校が創立140周年を迎えられましたことを心から嬉しく思います。

本校は明治9年、旧篠山藩主青山家21代当主青山忠誠公の意向を受けた旧藩士らによる、私立篠山中年学舎の設立が始まりとされています。その後、兵庫県立篠山鳳鳴中学校と、明治45年創立の多紀郡立高等女学校を前身とする兵庫県立篠山高等女学校が、戦後の学制改革により合併して兵庫県立篠山高等学校となり、昭和30年に兵庫県立篠山鳳鳴高等学校に改称し、現在に至っています。

この140年の間、約2万7千名の有為の人材を送り出し、地域の学府として輝かしい歴史と伝統を築いてこられました。これも、ひとえに歴代の校長をはじめ、教職員、保護者、同窓会、地域の皆様のご尽力及び生徒一人一人の努力の賜物と深く敬意を表するとともに、感謝申し上げます。

さて、開校以来一貫した教育の源流は、篠山藩校「振徳堂」の教育方針である「学規」にあると聞いています。その中に、「身分や年齢にかかわらず、学ぶ志の高い者から順に席につけば良い」との言葉があり、「自ら学ぶ志が第一」であることが説かれています。これは、現在、中央教育審議会が、新しい時代に必要となる資質・能力の一つとして挙げている「学びに向かう力」に通じるものであり、「アクティブ・ラーニング」を考える上で不可欠な要素を重視したものです。改めて、本校の教育方針に込められた深い英知と卓越した先見性に心から敬意を表します。

兵庫県教育委員会では、第2期「ひょうご教育創造プラン」に基づき、「兵庫が育むこころ豊かで自立した人づくり」をめざし、「自立して未来に挑戦する態度の育成」等子どもたちの社会的自立に必要な能力を育成する教育を推進しています。特に、高等学校では、キャリア教育の充実、学力向上方策の充実などを柱に、魅力ある学校づくりやグローバル化に対応した教育を推進しています。

このような中、本校の「総合科学コース」における取組、多様な学校設定科目の設置はもとより、「デカンショ節の伝承活動」「関係機関と連携したボランティア体験活動」「地域の小学校との交流活動」などの地域に密着した教育活動は、伝統と文化を尊重し、ふるさと丹波篠山を愛する態度を育成するとともに、グローバル社会において主体的に対応できる力を育成するものであり誠に頼もしい限りです。

本校が創立140周年という節目を契機として、歴史と伝統の上にすばらしい未来を築き上げられ、さらに大きく飛躍されることを心より祈念します。



創立140周年を祝して

篠山鳳鳴同窓会 会長 熊谷 満

本校の淵源を辿れば、明和3年（1766）に創設された篠山藩校「振徳堂」に辿り着きますが、明治4年廃藩により廃校となりました。

青山家 21代青山忠誠公の「郷里の子弟を養育して国家有用の人物を作る」とのご意志を受け、安藤直紀（後の初代篠山町長）はじめ有志により、明治9年（1876）、篠山城下黒岡の春日神社社の藩主観能御休憩所「小桃源」に、「一以て之を貫く」を建学の精神として、私立篠山中年学舎が創設されました。これをもって、忠誠公を校祖とし本校の創立としています。

本年ここに創立140周年を迎えましたが、この伝統の重みを轟々と感じながら、鳳鳴で学ぶことができた喜びを改めて感じています。

しかしながら、少子化の影響とはいえ、学級数が大きく減少したことは、まことに残念ではありますが、そうした中に在って、現役の生徒の皆さんの日々の活躍を目の当たりにするとき、とりわけ、篠山鳳鳴高校デカンショバンドの活躍は、ふるさと篠山を背負って立つ心意気を感じ、頼もしくもあり、同窓の一人として誇らしくも思います。

このたびの周年記念事業を開催するにあたり、同窓会はもとより、学校、教職員、PTAと共にとりくんでまいりましたが、なかでも、青山家ご当主の青山忠靖様より、生徒たちにご講話を賜りましたことは、まことに意義深いものとなりました。

また、140周年記念誌の編集にあたりましては、130周年記念誌に於いて、沿革等につきましては、精緻な編集を行いましたので、このたびは、その重複を避けて主に130周年以降の10年間を中心に編集いたしました。

同窓会といたしましても、この140周年を契機とし、後輩たちへの教育環境整備に一層の努力をしまいる所存でございます。母校の一層の躍進を心より祈念いたします。

創立140年を迎えて

P T A 会 長 大 原 基 義



篠山鳳鳴高等学校が創立140周年を迎えられましたこと、心よりお慶び申し上げます。この節目に関われることを、大変光栄に感じています。

兵庫県下で最も古い歴史を持つ鳳鳴高校も、近年の少子高齢化のあおりを受け、生徒数は減少傾向にあります。子供達はそれを感じさせないくらい元気いっぱい、この記念すべき年から更に歴史を刻みつつ、一日一日を送っています。そんな子供達から何気なく発せられている「鳳鳴高生らしさ」は、やはり140年という歴史の中で、どんな時代背景の中にあっても「一以貫之」青山 忠誠公の精神が脈々と受け継がれてきたものであると感じさせられます。

その証として、6月に挙行された鳳鳴祭では「豪華絢爛 ～煌めけ140周年の鳳鳴生～」と掲げ、文化祭・体育祭が盛大に幕を開けました。

文化祭では、各クラスの合掌・部の展示発表・趣向を凝らした模擬店など、どれも甲乙つけがたく、短い準備期間にもかかわらず、それぞれが素晴らしいパフォーマンスを見せてくれました。

体育祭では天候にも恵まれ、若さあふれるパワーと団結力で鳳鳴魂を存分に発揮し、140周年に相応しい鳳鳴祭を演じ、盛り上げてくれました。

その他勉学はもちろんのこと、部活動においても頼もしい活躍がなされています。

このような伝統と歴史をもつ学校で学べる子供達は本当に幸せだと、親としても感謝に堪えません。

しかし伝統校といえど、教育を取り巻く環境はめまぐるしく変化し、そのあおりを少なからず受けているのも事実です。

こんな時だからこそこの140周年の節目を契機とし、学校・家庭・同窓会・地域が協力して、今後の鳳鳴高校の道筋を考えていかなければならないのではないのでしょうか。

今の世の中の変化のスピードは大変速く、子供達の未来も決して保証されるものではありません。私たち大人は時代のスピードに翻弄されるのではなく、変化すべきこと、変化すべきでないことをしっかりと見極め、やがて巣立っていく子供達にスムーズに未来へのバトンを繋いでいけるよう努力していくべきだと、日々感じていますし、このようなそれぞれの想いを皆で共有し具現化していくこともまた、節目の記念事業の役割なのだと思います。

ともあれ、今日まで篠山鳳鳴高等学校にかかわってこられた全ての方々の魂が礎となり、歴史と伝統を守りつつ、更に大きく飛躍されることを祈念し、お祝いの言葉とさせていただきます。

青山忠誠公の精神が永遠に引き継がれますように…

校章



校旗



校歌

尾上 八郎 作詞
永井幸治郎 作曲

ひと びき一 よにー みつ さ さ や ま の
と よさか の ぼー るー さあ ささひ まこ の

わ か きー こ だー ち と いた ま あ れ き どて
ひ か り の な だー にー た か な き

く に とー る い へー と を さ さ ふ す べ き
ね むれ る ひ とー をー さ ま す べ

は し ら と も な ー ら む わ れ ー つ い に
ほ う と も な ー ら む わ れ ー つ い に

鳳鳴中学校校歌

尾上 八郎 作詞
永井 幸治郎 作曲

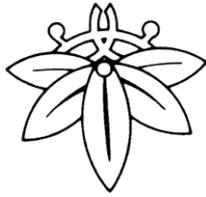
一、響世に満つ 篠山の
若き木立と 今あれど
国と家とを 支ふべき
柱とならむ われ遂に

二、豊さか昇る あさひこの
光の中に 高鳴きて
眠れる人を さますべき
鳳ともならむ われ遂に

三、年ふる城の 下にして
心を鍛え 身を錬りて
君と御代とを 守るべき
楯ともならむ われ遂に

四、伝えてこゝに わがうけし
勤儉尚武 忠勇の
三つの教を 胸にして
高き希望を はたしてむ

校章



校旗



校歌

小野寺孝哲 作詞
八木原道三 作曲

よ一にうたはるるささやまの
ふみにあはがるるささかしまろの

じようしのま—つはとききはかにて
たかねのつ—きはさきかにて

みほりにはちすらのはかなぜにほいい
ちすいにかつらのかぜにほいい

りよくんばささゆらぎちくりもななく
ぎんばささゆらぎちくりもななく

やうどすたま—みずのたむす—び—て—
うどすたまか—りのかむげく—み—て—

けくだかんきのみ—さ—を—や—し—な—は—ん
くだかんきのみ—さ—そ—や—し—な—は—ん

篠山高等女学校校歌

小野寺 孝哲 作詞
八木原 道三 作曲

一、世にうたわる、篠山の

城址の松は 常盤にて

み堀に 蓮の 花におい

緑葉さゆらぎ 塵もなく

宿す玉水 手むすびて

気高き操 養なわん

二、史に仰がるる 高城の

高嶺の月は さやかにて

蜘蛛に桂の 風におい

銀波さ揺らぎ 曇りなく

映す光の 影くみて

久遠の理想 養なわん

校章



校旗



校歌

井上あや子 作詞
川口市五郎 作曲

mf むら ー さ き の に お う や ま な み に か ひ
 あ け ー ほ の の み ど り の そ の に
 け ー り ゆ ー く ほ う の が や き さ
 び ー き あ ー う へ い わ の な が くれ は
mf わ て や し か な ー に き り は ほ れ た り
 の ゾ み も え た り
 い の ち も る わ か き し ね ち よ き ほ え い ざ ー い ざ
 ほ が ら な る わ ね ち に き さ か え い ざ ー い ざ
mf り そ う り そ う の ま な び ー や
 あ い ー あ い ー の ま な び ー や

篠山高等学校校歌

井上あや子 作詞
川口市五郎 作曲

一、紫の匂う山脈

翔りゆく 鳳の輝き
さわやかに 霧は晴れたり
いのち盛る 若き思念よ
きほえいざ 理想の学び舎

二、曙の緑の園に

ひびきあう 平和の流れ
涯しなく 希望燃えたり
朗らかなる 我等が自治に
栄えいざ 信愛の学び舎

三、茜さす 陽招の郷に

傳統の つきせぬ誇り
おゝらかに 御獄澄みたり
魂も身も さえ行く日々よ
磨けいざ 力の学び舎

校章



校旗



校歌

竹中 郁 作詞
酒井 弘 作曲

♩ = 約96
大らかに、力強く

mp はシこ るンじよ かりう のニの サあ ぞメと むルに ね まー なー ざし はー やワ つ

mf まキチ ナの つこめ ぶコキ く口は そワ らクを ーの ーおズつ くミむ セタえ

poco かがい いのち のの かカえ ーゼタだ ーセタえ ーかがい いのち のの なカこ ーがいの ーれナは さヒし

a poco ぐカげ りりも とシま めアつ すアつ みフや ーましは さユて るくる われわ ららわ ららわ

cresc. さサさ さサさ やまほ ままほ うめい いにに ににに みよみ みよみ よこで うえん ーえんと のの のソノ

f 力強く、急がずに
みち らかい ありり の そのほこりあり

一、はるかをのぞむ 眼ざしは
山なみつづく 空のおく
世界の風 世界のながれ
さぐりもとめて 澄みまざる
われら 篠山鳳鳴に
みよみよ 宏遠の
その未来あり

二、真理にさめる 若人の
わきたつこころ わく泉
たがいの肩 たがいの腕
ひかりにしぶき 溢れゆく
われら 篠山鳳鳴に
みよみよ 友愛の
その誓いあり

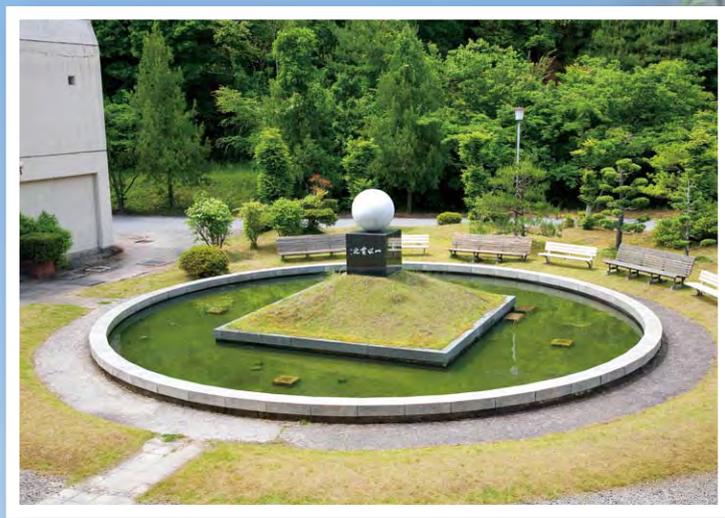
三、古城のあとに 根をはれば
土のほめきは 身をつつむ
叡智の枝 叡智の木の葉
しげりをまして つやは照る
われら 篠山鳳鳴に
みよみよ 伝統の
その誇りあり

篠山鳳鳴高等学校校歌

一以



貫之



明和3年(1766)

◇藩主青山忠高公、藩校「振徳堂」を創建、本校教育の源流となる。

中学校**私立篠山中年学舎****明治9年(1876) 11月**

◇青山家21代青山忠誠の意志により、篠山春日神社境内に私立篠山中年学舎を創設

公立篠山中学校**明治11年(1878)**

◇中年学舎を多紀郡立とし公立篠山中学校と改称

明治15年(1882) 3月

◇市瀬禎太郎を校長兼教員に囑任

明治16年(1883) 12月

◇校舎焼失、篠山城内の堀内令順第二宅を購入し校舎とする

私立鳳鳴義塾**明治17年(1884)**

◇中学校設備規則発布により本校廃止となるを、忠誠公これを遺憾とし、私財を投じて私立鳳鳴義塾と改称し、中学校教育を維持

私立尋常中学鳳鳴義塾**明治32年(1899) 1.31**

◇私立尋常中学鳳鳴義塾と改称

明治32年(1899) 4.1

◇私立中学鳳鳴義塾と改称

私立中学鳳鳴義塾**明治33年(1900) 3.1**

◇文部省認定により創立記念日とする(従来は8月1日)

明治42年(1909) 6.29

◇寄宿舍失火、廊下9坪を焼失

明治42年(1909) 7.25

◇同窓会第1回総会を開く

◇同窓会誌第1号の発行

大正8年(1919) 1.8

◇義塾はじめての2階建本館竣工し、落成式挙行

大正9年(1920) 3.5

◇本塾を4月から県立に移管

兵庫県立鳳鳴中学校**大正9年(1920) 4.1**

◇兵庫県立鳳鳴中学校と改称

◇定員300名を400名に増加

大正14年(1925) 3.1

◇創立50周年記念造林を設立

大正14年(1925) 11.1

◇創立50周年記念式典並びに慰霊祭を挙行

昭和2年(1927) 7.16

◇奉安殿竣工し落成式挙行

昭和3年(1928) 11.8

◇校歌制定 青山神社に報告式

昭和10年(1935) 5.7

◇創立60周年記念式・講堂落成式後 慰霊祭、祝宴、展覧会行われる

昭和19年(1944) 6.15

◇学徒動員始まる。1、2年生山林で炭焼、3年生尼崎甲陽製作所、4年生伊丹大阪機工

昭和19年(1944) 6.27

◇5年生尼崎住友金属へ動員

昭和20年(1945) 2.5

◇学校工場化、川西航空機宝塚工場疎開のため本校建造物700坪を貸与

昭和20年(1945) 8.16

◇終戦に伴い民主主義教育振興計画を樹立、実施

兵庫県立鳳鳴中学校・併設中学校**昭和22年(1947) 4.1**

◇併設中学校設置

女学校**多紀郡立高等女学校****明治45年／大正元年(1912) 2.22**

◇多紀郡立高等女学校設立認可

大正元年(1912) 5.28

◇郡公会堂にて開校式挙行

多紀郡実科高等女学校**大正3年(1914) 4.1**

◇多紀郡実科高等女学校と改称

大正10年(1921)

◇校歌制定

兵庫県立篠山高等女学校**大正11年(1922) 4.1**

◇兵庫県立篠山高等女学校と改称

大正11年(1922) 5.28

◇創立10周年記念式を挙行

大正12年(1923) 3.15

◇篠山町北新町(篠山城三の丸)に校舎寄宿舍が新築落成、新校舎に移転

昭和17年(1942) 5.28

◇創立30周年記念式を挙行し、松操会総会を開き生徒図書閲覧室の設置・校内拡声装置の新設を記念事業とする

昭和19年(1944) 6月

◇学徒動員により4年生は尼崎市大日電線へ、3年生は伊丹東洋紡績へ、1・2年生は製薪炭作業

昭和20年(1945) 4月

◇学校工場化(川西航空宝塚工業補導課)、3年生を学校工場に動員

昭和20年(1945) 6月

◇尼崎および伊丹の工場に動員の生徒寮戦災により焼失

兵庫県立篠山高等女学校・併設中学校**昭和22年(1947) 4.1**

◇併設中学校設置

昭和24年(1949) 3.24

◇女学校第35回卒業式

(最後の卒業生)

◇併設中学校第2回卒業式

(最後の卒業生)

篠山高等学校・篠山鳳鳴高等学校

兵庫県立鳳鳴新制高等学校

兵庫県立篠山女子新制高等学校

昭和23年(1948) 4.1

◇兵庫県立鳳鳴新制高等学校・兵庫県立篠山女子新制高等学校として新発足

昭和23年(1948) 7.1

◇県立鳳鳴新制高等学校と県立篠山女子新制高等学校と統合

昭和23年(1948) 9.1

◇県立篠山高等学校と校名変更

兵庫県立篠山高等学校

昭和23年(1948) 11.25

◇校章制定

昭和24年(1949) 10.24

◇校歌制定

昭和26年(1951)

◇生徒信条制定

昭和28年(1953) 9.1

◇兵庫農大教育実習(本年より昭和41年まで恒例となる)

兵庫県立篠山鳳鳴高等学校

昭和30年(1955) 4.1

◇兵庫県立篠山鳳鳴高等学校と校名を変更

昭和32年(1957) 6.11

◇産業教育研究指定校として文部省より指定(商業科)

昭和33年(1958) 7月

◇1年生臨海教育をこの年から開く

昭和38年(1963) 4.1

◇高校再編成により商業科は篠山産業高校に編入

昭和40年(1965) 4.1

◇1学年生徒定員普通科350名となり家政科を減す

昭和43年(1968)

◇篠山町大熊の現在地で新校舎敷地の起工式挙行

昭和46年(1971) 7.31

◇朝陽会館竣工

昭和46年(1971) 11.3

◇シンボルゾーン除幕式

昭和47年(1972)

◇体育館竣工、校舎移転作業開始

昭和48年(1973) 4.9

◇始業式(現在地の新校舎学校生活がスタート)

昭和48年(1973) 7.1

◇創立記念日(従来の5月12日を7月1日とする)

昭和51年(1976) 8月

◇育友会100周年記念事業として中庭に築山完成

昭和51年(1976) 11.7

◇創立100周年記念式典、記念誌「目で見る母校百年史」編集発行

昭和54年(1979) 1.16

◇2年生修学旅行。初のスキー実習、ブナ平スキー場(～1・20)

昭和54年(1979) 4.9

◇国際姉妹提携都市ワラワラ市より初の交換留学生校内生活開始

昭和56年(1981) 9月

◇旧高女「松操記念樹」に碑建立

昭和57年(1982) 10.5

◇1年生地理地学学習。この年より2年生多紀アルプス登山を同時実施

昭和58年(1983) 11.1

◇県グリーンスポーツ校の指定を受ける

昭和59年(1984) 7.18

◇1年生臨海教育。諸寄から実習場所を変えてより10周年、羽尾海岸に記念碑立つ

昭和61年(1986) 4.8

◇普通科の中に英語コース、理数コース各1学級を置く

平成元年(1989) 5.14

◇「鳳鳴義塾発祥之地」記念碑除幕式(旧校地)

平成2年(1990) 4.22～24

◇1年生オリエンテーション合宿

平成5年(1993) 5.30

◇インターアクトクラブ認証状伝達式

平成7年(1995) 12.26

◇大雪のため生徒用自転車置場倒壊(7棟)

平成8年(1996) 4.1

◇新しい制服を制定

平成10年(1998) 10.3

◇秋田県立大館鳳鳴高校百周年記念式典出席

平成13年(2001) 10.25

◇秋田県立大館鳳鳴高校と友好提携

平成15年(2003) 3月

◇「振徳堂」「學規」第6扁額及び「石敢當」が市文化財に指定

平成15年(2003)

◇国際共生コース(旧英語コース)、環境科学コース(旧理数コース)と改称

◇「青山記念文庫収蔵庫」整備

平成16年(2004) 9.1

◇オーストラリア・メルボルン市のマルーンダ・セカンダリー・カレッジと姉妹校提携

平成19年(2007) 1.15～19

◇2年生修学旅行 シンガポール・マレーシア(初の海外修学旅行)

校名	年号	本校の歴史	社会の動き
兵庫県立篠山鳳鳴高等学校	平成19年 4. 9	◇入学式	「不二家」「赤福」など食品偽装事件相次ぐ 年金記録漏れ、5000万件余 参院選地紋惨敗、民主躍進 新潟中越地震、死者15人 民営郵政スタート
	6.16	◇第59回体育祭	
	7. 8	◇第89回全国高校野球兵庫大会において硬式野球部9年ぶりベスト16 応援優秀賞受賞	
	9. 2	◇吹奏楽部 黒豆ライブに出演	
	9.14・15	◇第54回文化祭	
	平成20年1.15~19	◇2年生修学旅行（シンガポール・マレーシア）	
2. 28	◇第60回卒業証書授与式		



校長 梅澤一元



第59回体育祭



吹奏楽部 黒豆ライブ出演



第54回文化祭



2年生修学旅行（マーライオン公園にて）



硬式野球部（応援優秀賞受賞）

校名	年号	本校の歴史	社会の動き
兵庫県立篠山鳳鳴高等学校	平成20年 4. 8	◇入学式	米国オバマ黒人大統領誕生 リーマンショック世界に波及 ノーベル賞同時4氏受賞 (南部・小林・益川・下村各氏) 北京五輪開催 (H20.8/8~24) 洞爺湖サミット
	5.11	◇第1回柏鳳戦として、柏原高校との運動部定期戦を67年ぶりに再開 対戦10種目 結果 鳳鳴4勝-柏原6勝	
	6.21	◇第60回体育祭	
	8.15	◇デカンショ祭 競演会にPTA有志参加	
	9.20	◇第55回文化祭	
	平成21年 1.24~29	◇2年生修学旅行(2班に分かれてグアムへ)	
	2. 27	◇第61回卒業証書授与式	



第1回柏鳳戦



第60回体育祭



鳳鳴義塾記念碑



第55回文化祭



2年生修学旅行(グアム)



校名	年号	本校の歴史	社会の動き
兵庫県立篠山鳳鳴高等学校	平成21年 4. 8	◇国際共生コース募集停止	新型インフルエンザ大流行、死者相次ぐ 裁判员制度スタート (H21.5) 「まちなみアートフェスティバル」誕生 (H21.9) 衆院選で民主308議席、歴史的政権交代
	5.10	◇入学式 ◇第2回柏鳳戦 対戦11種目 結果 鳳鳴4勝-柏原7勝	
	6.20	◇第61回体育祭 ◇京大文学部研修旅行来校 青山記念文庫収蔵庫を見学	
	9.18・19	◇第56回文化祭	
	平成22年 1.22~25	◇2年生修学旅行 (IN 北海道)	
	2. 27	◇第62回卒業証書授与式	



校長 片山 則昭



第56回文化祭



第61回体育祭



2年生修学旅行 (スキー実習小樽)

校名	年号	本校の歴史	社会の動き
兵庫県立篠山鳳鳴高等学校	平成22年 4. 8	◇入学式	「はやぶさ」7年の宇宙の旅、イトカワ惑星から帰還 (H22.6) 観測史上最高の猛暑、全国で熱中症多発 尖閣列島領海内で中国漁船巡視船に衝突 (H22.9) 東日本大震災、死者・不明者約2万人 (H23.3.11)
	5. 9	◇第3回柏鳳戦 対戦12種目 結果 鳳鳴3勝-柏原8勝 1分	
	6.12	◇第62回体育祭	
		◇体育館等の耐震化工事着工	
	9.17・18	◇1年生総合学習 野外実習「丹波篠山地域の研究」	
	平成23年 1.23~26	◇第57回文化祭	
2. 28	◇2年生修学旅行 (IN 北海道) ◇第63回卒業証書授与式		



第3回柏鳳戦



松操



第62回体育祭



第57回文化祭



地域国際交流セミナー「丹波篠山の地域研究」



ワラワラ短期留学出発



2年生修学旅行 (スキー実習)

校名	年号	本校の歴史	社会の動き
兵庫県立篠山鳳鳴高等学校	平成23年 4月	◇総合科学コース（旧環境科学コース）に改変 ◇冬服、夏服ともミッシェル・クランデザインの制服に変更	サッカー「なでしこジャパン」世界一（H23.7） テレビ放送が地デジに移行（H23.7）
	4. 8	◇入学式	
	5. 8	◇第4回柏鳳戦 対戦11種目 結果 鳳鳴3勝-柏原8勝	
	6. 5	◇第1回鳳鳴芸術祭	
	6.13	◇第63回鳳鳴体育祭 大縄跳びで95回の大会記録誕生（3年5組）名物だったバックボードが今大会から横断幕に様変わり	
	9.17	◇第58回文化祭	
	11. 7	◇2年生修学旅行 マレーシア（～11）	
	平成24年 2.28	◇第64回卒業式 卒業生219名	
	3.21	◇地域貢献事業講演会	



校長 明山 修



新しい制服



入学式



1年生オリエンテーション合宿



第4回柏鳳戦



第63回体育祭



第58回文化祭



2年生修学旅行（マレーシア）



校名	年号	本校の歴史	社会の動き
兵庫県立篠山鳳鳴高等学校	平成24年 4. 9	◇入学式	米大統領選でオバマ氏が再選 中国共産党総書記に習近平氏 東京スカイツリー開業 (H24.5) NASA 無人探査車が火星に着陸 (H24.8) ロンドン五輪、史上最多のメダル38個 (H24.8) 尖閣国有化で日中関係悪化 ノーベル生理学・医学賞に山中教授 (H24.10) 中央道笹子トンネルで天井板落下事故 (H24.12)
	4.24	◇1年生オリエンテーション合宿 (~26)	
	5.13	◇第5回柏鳳戦 対戦9種目 結果 鳳鳴3勝-柏原6勝	
	5.26	◇第2回鳳鳴芸術祭	
	6.15	◇第1回鳳鳴祭 (6.15 文化祭/6.21 体育祭)	
	6.27	◇職業人講演会	
	9.17	◇2年生修学旅行 マレーシア (~21)	
	11. 4	◇第8回鳳鳴のつどい 高女100周年を祝う会	
	平成25年 2.28	◇第65回卒業証書授与式	
	3.12	◇生き方を考える講演会	



1年生 オリエンテーション合宿



第5回柏鳳戦



高女100周年記念



第2回鳳鳴芸術祭



職業人後援会



第64回体育祭



デカンショ競演会に参加



2年生修学旅行 (マレーシア)

校名	年号	本校の歴史	社会の動き
兵庫県立篠山鳳鳴高等学校	平成25年 4. 8	◇入学式	和食がユネスコ無形文化遺産 (H25.4) 三浦雄一郎、最高齢(80才)でエベレスト登頂 (H25.5) 富士山、世界文化遺産登録 (H25.6) 特定秘密保護法成立 (H25.6) 「あべのハルカス」全面開業 (H26.3) 「笑っていいとも!」放送終了 (H26.3)
	4.23	◇1年生オリエンテーション合宿(～25) 神鍋高原名色ホテル	
	5. 4	◇第3回鳳鳴芸術祭	
	5.12	◇第6回柏鳳戦 鳳鳴初優勝 対戦9種目 結果 鳳鳴5勝-柏原4勝	
	6.14	◇第2回鳳鳴祭 第60回文化祭	
	6.22	◇第2回鳳鳴祭 第65回体育祭	
	7.12	◇職業人講演会	
	9.23	◇2年生修学旅行 マレーシア(～27)	
	9.25	◇地域講座開催 「篠山の財政講座」「篠山市消防署」「子育てふれあいセンター」「篠山市中央図書館」などから講義や体験活動	
	11.20	◇大館鳳鳴高校創立115周年記念事業 ◇ボランティア講座 篠山市社会福祉協議会 「手話講座」「車いす体験」「アイマスク体験」など	
	平成26年 2. 4	◇校内長距離走	
	2.28	◇第66回卒業証書授与式	



第60回文化祭



第65回体育祭



2年生修学旅行(マレーシア)



大館鳳鳴高校創立115周年記念事業 野球招待試合



市民センター祭り・まるいのTVに出演



校内長距離走

校名	年 号	本 校 の 歴 史	社会の動き
兵庫県立篠山鳳鳴高等学校	平成26年 4. 8	◇入学式	STAP細胞騒動 (H26.4) 御嶽山噴火 (H26.9) ノーベル物理学賞 (赤崎・天野・中村氏) 世界文化遺産に「富岡製糸場」 北陸新幹線開業開業 (H27.3)
	4.22	◇1年生オリエンテーション合宿 (～24) 神鍋高原名色ホテル	
	5.11	◇第7回柏鳳戦 対戦9種目 結果 鳳鳴1勝-柏原8勝	
	6.13	◇第3回鳳鳴祭 第61回文化祭	
	6.19	◇第3回鳳鳴祭 第66回体育祭	
	8.15	◇インターアクト部 (デカンショバンド) NHK「おはよう関西」生出演 デカンショ節演奏	
	9.22	◇2年生修学旅行 マレーシア (～26)	
	平成27年 1.25	◇市民センターまつり スクールフェスティバル参加	
	2. 3	◇校内長距離走	
	2.27	◇第67回卒業証書授与式	



1年生オリエンテーション合宿



第61回文化祭



第7回柏鳳戦



第66回体育祭



地域研究 篠山城



2年生修学旅行 (マレーシア)

校名	年号	本校の歴史	社会の動き
兵庫県立篠山鳳鳴高等学校	平成27年 4. 8	◇入学式	篠山市「日本遺産」に決定 (H27.4.21) 18歳選挙権成立 (6.17) '16参院選から マイナンバー制度開始 ユネスコ「創造都市」に篠山市が加盟 (H27.12) 北海道新幹線 (新青森~新函館有斗) 開業 (H28.3.26)
	4.22	◇1年生オリエンテーション合宿 (~24)	
	5.10	◇第8回柏鳳戦 対戦9種目 結果 鳳鳴4勝-柏原5勝	
	6.12	◇第4回鳳鳴祭 第62回文化祭	
	6.20	◇第4回鳳鳴祭 第67回体育祭	
	9.15	◇2年生修学旅行 マレーシア (~19)	
	平成28年 2. 3	◇校内長距離走	
3. 1	◇第68回卒業証書授与式		



1年生オリエンテーション合宿



第8回柏鳳戦



第67回体育祭



2年生修学旅行 (マレーシア国家記念碑前で)



第62回文化祭

校名	年 号	本 校 の 歴 史	社会の動き
兵庫県立篠山鳳鳴高等学校	平成28年 4. 8	◇入学式	熊本地震 (H28.4.14) 原子番号113番、二ホ ニウム (Nh) と命名 (H28.6) リオデジャネイロオリン ピック開幕 (H28.8) 祝日「山の日」(8.11) 施行
	4.20	◇1年生オリエンテーション合宿 (~22)	
	5. 8	◇第9回柏鳳戦 対戦9種目 結果 鳳鳴3勝-柏原6勝	
	6.10	◇第5回鳳鳴祭 第63回文化祭	
	6.14	◇第5回鳳鳴祭 第68回体育祭	
	11.12.13	◇140周年記念事業	
	平成29年1.19	◇2年生修学旅行 (北海道スキー実習)	
2.28	◇第69回卒業証書授与式		



校長 岸田 吉明



入学式



第9回柏鳳戦



第63回文化祭



第68回体育祭



若い人たちにへ

丹波篠山文化会議名誉会長 かわ い まさを 河合雅雄



太平洋戦争の終結から71年たった。米軍の無差別爆撃によって、東京、名古屋、大阪、神戸といった主要都市の大部分が焦土となった悲惨な状況から、よくも早く復興したものだと思う。現代の繁栄を見るにつけ、戦前からの体験者として感慨無量である。原爆の悲惨さばかりが強調されるが、東京大空襲では広島に匹敵する人が亡くなった。そして、この戦争で日本人の死者は310万人に達した。

このうち軍人軍属の死者は230万人である。想像を絶する惨状は、このうちの約6割が餓死者だったという事実である。世界の戦争史の中でも希有な出来事だと言えよう。いかに無謀な戦争だったか、この一事だけでもわかる。

私は戦時中肺結核で病床にあった。同級生が戦場で戦っているのに何もできないもどかしさと悔しさとともに、戦争について冷静に考えることができた。当時結核にきく薬はなく、安静と栄養物の摂取が唯一の治療法だった。食料も十分でない時代に、よくも生きのびたものだと思う。戦後旧制の官立新潟高校に復学した。中学4年修了の秀才からかっての陸軍中尉や海軍大尉も混じったモザイク的なクラスだったが、みんな学問への情熱に燃えていた。猛吹雪に雪だるまになって登校し、暖房のない教室でかじかんた手でノートをとった。

戦前、戦中戦後の体験を通じてえた日本が世界に誇れる特質を三つあげるとすれば、災害に対する強靱な抵抗力と復興力、戦争放棄を宣言した憲法九条、1億2千7百万人の人が狭い国土にひしめきながら、犯罪の少ない安全安心の国を維持していることだと思う。

若い人たちにへの願いは、この三つをぜひ守りぬき、後世に伝えてほしいことだ。とくに九条は、先の大戦で亡くなった人たちの遺言として大切にしてほしい。戦争はこの世に地獄を作る行為である。（「丹波篠山」から）



左：2014年3月1日発起人会 上：会員の寄贈図書（257冊：2016年7月現在）



左：第2回総会（2016年） 上：設立総会（2014年）

会員は、学術・芸術分野で原則「学会」に所属又は「全国的評価」を受けた方々を対象としています。

主な活動内容

母校との連携事業

母校が文部科学省から「伝統文化教育」の研究指定を受けたのを機に、講演会等の協力。25年度、映画「森の学校」の上映と河合雅雄氏講演。26年度本田里美氏講演。27年度加茂前秀夫氏の講演を実施。

丹波篠山キッズサイエンス教室

京都大学と篠山市教育委員会と連携、「学びの学習」をテーマにサイエンス教室を開催。併せて市内小中学校の理科系教員の研修会も実施。母校から生物部の生徒がエスコート。



会報誌の発行

会員相互の親睦を図る
為年4回発行

丹波篠山文化会議記念文庫

著書（自伝書を除く）及び貴重な資料、作品等の寄贈を行っています。現在 257冊、作品 100 余点収蔵



（清水氏寄贈）大英博物館永久保存の姉妹作品

下：火置氏の絵画及び三宅氏の書（本館3階展示中）



創造的文化の発信基地たれ

丹波篠山文化会議会長 **新家 龍**



篠山の教育・文化にいくばくかの貢献ができればとの願いから発足した丹波篠山文化会議は既に3年目。今60名の会員登録があり、色々な分野で活躍されているメンバーがこれ程多いとは正直驚いた。篠山在住者も結構多い。

当会発足のお蔭で旧交も温められ、新しい親交も始まった。

篠山市は、「文化芸術創造都市」「日本遺産」「ユネスコ創造都市ネットワーク」に指定され、文化の三大タイトルを手に入れました。これは先人のたゆまぬ努力のお蔭であると同時に市民の文化レベルが世界にも通用することが証明されたと理解したい。市民の音楽活動、書道・俳句の活動、立杭焼、伝統芸能などに加えて食文化の多様性など、伝統に支えられたこれらの活動は他の都市にはみられない誇るべきものではないか。

この文化レベルの高い篠山で当会の果たす役割は何か？ 会員諸兄は、それぞれの分野において全国ネットや世界的ネットを持つ方々である。このネットワークを篠山の文化の発展に活かす。強いて言えばシンクタンクの役割を持つことではないだろうか…

市民の活動にお節介な介入は避け、乞われれば積極的に知見を発揮する。教育であれ、文化活動、経済活動であれ、会員の特性を生かしたアドバイスが、母校をはじめ丹波篠山発展の起爆剤になると信じてやまない。

第3期 新役員（任期2年）

名誉会長	河合 雅雄（鳳中56）	京都大学名誉教授（理学博士）
特別会員	青山 忠靖	（青山家当主）
会長	新家 龍（鳳高05）	神戸大学名誉教授（農学博士）
副会長	団野 源一（鳳高09）	神戸大学名誉教授（農学博士）
副会長	寺本 敬子（鳳高15）	大阪市立大学講師（医学博士）
専務理事	西垣 吉春（鳳高17）	映画監督
常務理事	勝木 洋子（鳳高22）	神戸親和女子大学教授
理事	藤田 弘道（鳳高16）	大阪学院大学名誉教授（法学博士）
理事	中西 健治（鳳高18）	立命館大学特任教授（文学博士）
理事	清水千代市（鳳高19）	陶芸家
理事	萩森 学（鳳高21）	産学連携コーディネーター（農学博士）
理事	林 和利（鳳高23）	名古屋女子大学教授（文学博士）
理事	本田 里美（鳳高30）	弁護士、立命館大学非常勤講師
理事	加藤 善朗（鳳高34）	京都西山短期大学教授（学術博士）
理事	小島 美樹（鳳高36）	梅花女子大学（歯学博士）
監事	加茂前秀夫（鳳高19）	東京農工大学名誉教授（農学博士）
事務局長	明山 修（鳳高25）	兵庫県いきがい創造協会
事務局長代行	岸田吉明（鳳高28）	篠山鳳鳴高等学校長
参与	樋口 一哉（鳳高36）	篠山鳳鳴高校教頭
参与	熊谷 満（鳳高17）	篠山鳳鳴同窓会長
参与	平野 斉（鳳高27）	篠山市副市長
参与	前川 修哉（鳳高25）	篠山市教育長

大館鳳鳴高校との交流

篠山鳳鳴と大館鳳鳴

- 平成13年 同じ「鳳鳴」という名をもつ縁で姉妹校提携
- 平成15年 大館鳳鳴高校創立105周年交流試合(大館樹海ドーム)
- 平成18年 篠山鳳鳴高校創立130周年交流試合(篠山鳳鳴高校グラウンド)
- 平成23年 第83回選抜高等学校野球大会
大館鳳鳴高校21世紀枠で出場時、篠山鳳鳴硬式野球部を
中心に大応援団を仕立て甲子園で応援

友好提携に関する覚書

平成十三年十月二十五日

秋田県立大館鳳鳴高等学校 T A 会長 中野 隆之
 秋田県立大館鳳鳴高等学校 校長 藤崎 有平
 秋田県立篠山鳳鳴高等学校 T A 会長 山中 信彦
 秋田県立篠山鳳鳴高等学校 校長 上野 洋行

兵庫県立篠山鳳鳴高等学校と秋田県立大館鳳鳴高等学校は、兵庫・秋田両県において相互に「鳳鳴」という名を冠した歴史と伝統に輝く高等学校であります。また卒業生からは郷土国内はもとより国際的に活躍されている人材を多く輩出しています。両校は互いの存在を深く認識し二〇〇一年相互訪問を機に将来にわたって友好親善の実を高め、学校を中心にPTA、同窓会の交流を通じて人材の育成と地域の振興を図りたいと考えます。今後私達は両校のより一層の充実発展を祈念し、覚書を交換します。

H.25 10.7 大館鳳鳴高校創立115周年記念事業 野球招待試合



秋田県立大館鳳鳴高等学校
創立115周年記念事業
野球招待試合

校訓「質実剛健」の精神で文武両道を理想とし、約半数が国公立に進学。部活動も活発に行われている。



大館鳳鳴高校に到着



迫力ある応援演舞



キャプテン同士
固い握手

TEAM	1	2	3	4	5	6	7	8	9	R	S	B	O
篠山鳳	0	0	1	2	0	0	0	0	3				
●大館鳳	2	0	1	2	0	4	2	×	11				
打者:	田中												

試合結果は、3対11で、大館鳳鳴高校の勝利。いつか、甲子園で対戦しましょう!



郷土料理のだまご鍋をふるまって頂きました。



郷土料理「だまご鍋」

ついたご飯をピンポン球の大きさに丸めたものを「だまご」という。出汁は本場の比内地鶏。具は舞茸、ごぼう、ねぎ、せりなど。

世話係の野球部員達、試合を応援してくれた全校生徒、特に全身全霊で篠山鳳鳴を応援してくれた半数の大館鳳鳴高校の生徒達、丁寧にお話をして下さった先生、関わりあったどの人も温かく対応して下さいました。こちらの「ありがとう」に、「甲子園に出場した時に篠山の人が一生懸命応援してくれたから、お返しです」という謙虚な言葉が印象に残っています。

篠山鳳鳴の熱い思いが繋がっていること、そしてその思いを私たちが受け取り、また次へ繋いでいかなければならないという気持ちで一杯になった招待試合でした。

(PTA広報誌「育鳳110号」より抜粋)

1 教育方針

明治9(1876)年、私塾篠山中学舎の創設以来掲げられてきた「国家有為の人材育成」の抱負と、昭和26(1951)年、「学校の教育方針と生徒の生活目標との融合一体を示すもの」として制定された“生徒信条”が、今日までの校風と本校の歩みを導いてきた。

生徒信条 「1. 勉強第一 2. 正義の実行 3. 身体の強健」

いかに時代が変わろうとも、ふるさとを愛し地域社会の発展に寄与する人間の育成、自らを鍛錬し自己実現を達成する自立した人間の育成、自立のこころを身に付け国家および国際社会に貢献できる人間の育成は、本校の使命である。

この使命を達成するため、教職員は切磋琢磨しつつ、自らの資質・能力を高め、生徒ひとり一人の確実な知識理解と豊かな心の涵養を図るとともに、地域に開かれ信頼される魅力ある学校づくりを目指す。

2 学校経営の重点

(1) 個に応じた知識理解の伸長と自尊心の涵養

ア 「ひょうご学力向上サポート事業」や「インスパイア・ハイスクール事業」を活用し、生徒自らが積極的に言語活動や探求活動等を通じて学力向上を図るための教育環境づくりを進める。

イ ひとり一人の能力・適正に応じた教育および学習指導を行うことにより、生徒が喜びと期待を持って登校する学校づくりを進める。

ウ キャンパスカウンセラーや関係機関等との連携、教職員のカウンセリングマインドの向上等を図ることにより、生徒の悩みを受け止める教育相談体制を充実する。

(2) 保護者から信頼される学校づくり

ア ホームページの充実、学校だより、学年通信、保護者懇談会などを通じて、保護者や市民等に対して学校行事や学年の取り組み、部活動などの計画や成果を積極的に発信する。

イ 家庭訪問や面談等を通じて学年・学級担任等と保護者との共通理解を図り、家庭と学校との連携を密にし、生徒ひとり一人の成長を支援する。

ウ 総合的な学習の時間や高校生就業体験事業、科目「体験活動」等を通じて、職業研究、職業体験を積極的に進めることにより、生徒の健全な職業観や勤労観を培うとともに、進路希望の自己実現を支援する。

(3) 地域に信頼される学校づくり

ア 市・市教育委員会、幼稚園・保育所、小・中学校等と連携し、地域で生まれ地域で育つ子供たちの最終の公立学校（公的後期中等教育機関）としての責任を果たす学校づくりを進める。

イ 学校教育全体を通じて、地域の伝統文化・行事の継承や生涯学習スポーツ、PTAや地域住民と連携したふるさと貢献活動、国際交流活動等に積極的に参加することにより、ふるさとを愛し、地域社会の一員として積極的に生きる人材を育成する。

ウ 学校評価とその公開を積極的に進めることにより、本校教育の可視化を図るとともに、地域住民の期待や要望等を教育活動に活かすことに努める。

(4) 教職員が自信を持って働ける学校づくり

ア 教材研究・授業研究や各種研修による授業の充実を図るため、ノー残業デー、ノー会議デー、ノー部活デーを設定し、教職員ひとり一人の資質向上と心身の健康増進に努める。

イ 『シラバス』（3年間を見通した教育計画）を作成し、教職員の共通理解と教育内容の平準化を図るとともに、シラバスを生徒・保護者等へ配布、授業の公開等により、本校教育の信頼づくりに努める。

ウ 教職員が互いを認め合い、気軽に相談できる職場づくりに努めることにより、教職員が自信と生き甲斐を持って働ける学校づくりを進める。

3 教科指導及び生徒指導（特別教育活動を含む）の重点

(1) 教科指導の重点

ア 各教科・科目の「シラバス」を配布し学習到達目標、評価方法を明確に示し、生徒が学ぶ姿勢を確立できるよう絶えず指導、助言を行う。

イ コース・類型・習熟度別授業及び選択科目の設置を工夫し、進路決定に適切できるカリキュラムの作成を研究する。

ウ 大きな学力差を克服するための授業力向上を目指し、教員相互の授業見学・研究授業を活発に展開し、経験差による到達度や指導視点の相違点を埋める取組を実践する。

(2) 生徒指導の重点

ア 生徒指導

(ア) 集団生活の規律を守る態度を育て、人間的なふれあいに基づく生徒理解に努める。

(イ) 地域社会の構成員としてのマナーを学び、自覚と責任ある行動を身に付けさせる。

(ウ) 生命の尊さと心と心の絆を重んじることのできる人間性を養う。

(エ) 家庭や関係機関との連携を密にして、問題行動の的確な解決を図る。

(オ) 職員全員が統一した指導基準により服装指導、挨拶指導、登下校の交通安全指導の確立を図る。

イ 特別活動

(ア) 生徒会活動

a 自主的・自発的活動を援助し、行事の充実を図るとともに、委員会活動を活性化させる。

b 生徒会として地域との連携を図る取り組みを企画、実施する。

(イ) ホームルーム活動

a 自己実現に資する心豊かなふれあいの場として充実を図る。

b クラスの一員として自主的に責任を果たし、互いに協力し合う実践力を養う。

(ウ) 部活動

a 部活動への積極的な参加を呼びかけ、体力と精神力を高めると共に、豊かで健康な生活を築いていく。

b 学習との両立を図り、部活動の活性化を学校の力として文武両道の伝統を継承する。

ウ 進路指導

(ア) 確かな学力を礎に、能力・適性、興味・関心など個性を伸ばし、自らの意思で進路選択開拓を進めていく決断力を養い、社会に貢献できる人材の育成を目指す。

(イ) 効果的な学習体制の確立や的確な進路情報の提供を行うとともに、担任・生徒・保護者との共通理解を図り、生徒の特性を活かす指導の徹底を図る。

(ウ) 進路指導部と学年の連携を強化し、進路情勢の的確な分析を行い生徒に還元する。

エ 人権教育

人権を尊重し人の痛みが共感できる心を養う。

(ア) 人権教育推進委員会、各学年が共通理解を深め、効果的な人権教育を推進する。

(イ) 年間教育計画のなかで、講演会、グループワークを実施し、人権意識の高揚を図る。

- (ウ) ネット社会におけるいじめや人権侵害、個人情報の漏洩等にも注意を喚起させる。
- (エ) 職員研修会を実施し職員全体の共通理解を図り、人権意識を高める指導力の向上に努める。
- (オ) 関係機関との連携を図り、生徒の自己実現を目指した教育相談活動を進める。

4 健康管理に関する指導の重点

(1) 健康管理の推進

- ア 健康や体力について理解を深め、体育活動の実践を通して心身の調和のとれた発達を促す。
- イ 保健の授業を通じて、心身の健康や食育に関する知識を身につけさせ、「望ましい生活習慣づくり」を図る。

(2) 安全教育

- ア 健康と安全について関心と意欲を高め、危機管理に対する動機付けに結びつける。
- イ 心身の健康を増進し、事故災害に対しても安全を確保できる能力や態度を養う。
- ウ 応急処置や心肺蘇生法等を学び、安全教育の徹底と個々の生活環境を見直す契機とする。

5 校務分掌 (P32,33に掲載)

6 研究テーマ

- (1) 大阪大学連携指定校としての連携推進について
- (2) 「ひょうご学力向上サポート事業」を活用した学力向上の取組について
- (3) 「インスパイア・ハイスクール事業」の活用について
- (4) 学校評価における授業アンケートの充実と活用について
- (5) 「障害者差別解消法」の施行に伴い、合理的配慮に基づいた特別支援教育を推進するための校内体制と研修のあり方について

7 高校生ふるさと貢献活動事業を中心に地域貢献として実施する内容

- (1) 「デカンショお囃子隊」によるデカンショ節の伝承活動と広報活動を展開する。
- (2) 地域の教育機関・福祉機関・社会福祉協議会・市民団体等と連携し交流を深め、ボランティア体験を推進する。
- (3) 地域の小学生との英語・絵本・スポーツの交流会の実施や中学校との授業研究会を開催する。
 - ア レッツ ボランティア
 - (ア) インターアクト部、各部活動、生徒会、PTAが連携をとりながら、地域の伝統文化・行事においてボランティア活動を行う。
 - 春日能(4月) / デカンショ祭り(8月) / 篠山車いすマラソン(9月) / 篠山マラソン(3月)
 - (イ) インターアクト部が篠山養護学校、自立支援作業所、特別養護老人ホーム等の施設を訪問し、体育祭や文化祭、盆踊り大会を通じて交流を行う。
 - 篠山市立篠山養護学校支援活動 / ワーキングたんば(障害者自立支援作業所) 支援活動 / 特別養護老人ホーム「和寿園祭」(5月) 支援活動 / 「咲楽荘」夏まつりでのボランティア活動
 - イ フラワーデコレーション活動
 - 学校の敷地内だけでなく、校門付近やその周辺に生徒ボランティア、インターアクト部等が協力して、季節に応じた花を植え校内環境作りを推進する。
 - ウ クリーンアップ作戦
 - 全校生とPTAが協力し年間3回の地域清掃活動を実施する。(5月、7月、10月)
 - エ 国際交流推進活動
 - 篠山市姉妹都市委員会との提携によりアメリカ合衆国ワシントン州ワラワラ市への短期留学やオーストラリアの姉妹校との隔年ごとの短期交換研修を行い、PTAとの共催による地域国際セミナーを開催する。
 - オ オープン・ハイスクール
 - (ア) 教育課程や様々な教育活動および部活動等を紹介する説明会及び公開授業を実施する。
 - (イ) 篠山市内を中心に、新第2学区内中学校へ出向き、学校説明会「出前オープン・ハイスクール」を実施する。
 - (ウ) 近隣の中学校の保護者や地域住民に対して学校公開日や授業公開を設け、本校の教育活動を公開し開かれた学校づくりを行う。
 - カ 地域オープンセミナー
 - PTA、地域に呼びかけ、パソコン入門講座等のセミナーを実施する。
 - キ 地域研究交流会
 - 地域の様々な分野の「匠」から、その技術・活動の魅力に迫り、地域に根ざす努力を学ぶ。

8 高校生就業体験事業で実施する内容

- 教科・科目及び総合学習の職業研究を通して、望ましい職業観、勤労観を育成し、学校の学習と職業の関係について理解を促進する。
- (1) 第1学年の総合的な学習の時間で職業研究を実施し、職業観・勤労観を育成する。
- (2) インターンシップを実施する。
 - ア 事業所でのインターンシップ、医療機関での看護体験(2、3年希望者)
 - イ 職業体験活動(1、2年「体験活動」履修者)
- (3) 「こどもふれあい事業」の推進
 - 2年「家庭一般」の授業、3年選択授業「保育」で市内の幼稚園・保育園児と交流する。

9 高校生キャリアノートの活用

- (1) 兵庫県教育委員会の「キャリアノート」を基に、生徒一人一人が、生涯を見据えて、学ぶ意義や目的を見出し、充実した人生を送る基盤を形成する。
- (2) キャリアプランニング能力をはじめ、コミュニケーション能力や課題対応能力等、自立した社会人・職業人として将来に必要な能力の育成をめざすキャリア形成の支援に、家庭や地域との連携のもと取り組む。

10 総合的な学習の時間の有効的な活用

各学年の目標に従って、生きる力と豊かな心の育成を図る取組、講演会、ワークショップを実施。

【講演会実施計画】

- 1年生・・・7月職業ガイダンス、11月地域研究交流会、2月ディベート講演会
- 2年生・・・5月進路研究、9月国際理解、2月コミュニケーション能力向上
- 3年生・・・7月面接対策講座、10月マナーアップ講座

教育課程

学 年			1 年		2 年				3 年							備 考			
			普通	総合	文系	理系	総合科学 文系	総合科学 理系	文系Ⅰ	文系Ⅱ	文系共通選択群			理系	総合科学 文系		総合科学 理系		
教科	科目名	単位																	
国語	国語総合	4	5	4															1年 □より1科目選択
	現代文B	4			2	2	2	2	3	3					2	3	2		
	古典	4			3	2	3	2	3	3					2	3	2		
	実践国語	4									3	3							
地歴	世界史A	2			■2		■2											2	2年文系・総合科学文系 □より1科目選択 ■より1科目選択 ◇より1科目選択
	世界史B	4			◇4		◇4		◇4	◇4							◇4		
	日本史A	2																	
	日本史B	4			◇4		◇4		◇4	◇4							◇4		
	地理A	2			■2		■2												
歴史	地理B	4				2		2							2		2	2年理系・総合科学理系 ◆より1科目選択	
	地歴探究①	2													2				
	地歴探究②	2												3	2				
公民	現代社会	2	2	2														3年 ◇より1科目選択 3A・3B・3Cより1科目選択 但し同一科目は選択できない	
	倫理	2												2		2			
	政治経済	2							2	2						2			
数学	数学Ⅰ	3	4	5															
	数学Ⅱ	4			4	4	4	4											
	数学Ⅲ	3													5	5			
	数学A	2	2	2															
	数学B	2			□2	2	2	2											
	応用数学1	3								3						3			
	応用数学2	2								2						2			
理科	実践数学	2													2	2			
	数学探究	3									3	3							
	物理基礎	2	2	2															
	化学基礎	2	2	2															
	生物基礎	2			2	2	2	2											
	物理学	4			◆2		◆2								◇4	◇4			
	化学	4				3		3							3	3			
体育	生物	4			◆2		◆2					3		◇4	◇4				
	化学探究	2							2										
	生物探究	2							2	2					2				
	体育	7	3	3	2	2	2	2	2	2					2	2			
	保健	2	1	1	1	1	1	1											
芸術	スポーツ概論	2			□2														
	スポーツ総合演習	2												2					
	音楽Ⅰ	2	□2	□2															
	美術Ⅰ	2	□2	□2															
	書道Ⅰ	2	□2	□2															
外国語	演奏研究	2									3								
	構成	2												2					
	書表現	2												2					
	コ英語Ⅰ	3	3	3															
	コ英語Ⅱ	2			4	4	4	4											
	コ英語Ⅲ	2							4	4					4	4	4		
	英語表現Ⅰ	4	2	2															
	英語表現Ⅱ	3			2	2	2	2	2	2					2	2	2		
家庭	英語会話	2			□2														
	実践英語	2			□2														
	英語探究	4									3	3							
	家庭基礎	2			2	2	2	2											
情報	子どもの発達と保育	3												3					
	フードデザイン	3											3						
	情報の科学	2	2	2															
総合	応用ソフトウェア	2												2					
	体験活動	2	(2)	(2)	(2)	(2)	(2)	(2)											
	総合的な学習の時間	3	1	1	1	1	1	1			1				1	1	1		
ホームルーム活動	1	1	1	1	1	1	1			1				1	1	1			
週当たり授業時数	32	32	32	32	32	32	32			32				32	32	32			

体験活動は1・2年生の希望者を対象に、長期休業中などを利用し体験的な活動を行い、年度末に単位認定を行う。

・始業時刻 8:40 終業時刻 15:40 (火・木曜日は16:40) ・1単位時間 50分

年間行事予定

4月

- ・着任式 始業式 入学式
- ・課題考査 離任式 対面式
- ・1年オリエンテーション合宿

5月

- ・柏鳳戦
- ・生徒会選挙
- ・中間考査
- ・PTA 総会 生徒総会

6月

- ・鳳鳴祭(文化祭・体育祭)
- ・保護者進路研修会①

7月

- ・期末考査
- ・終業式
- ・オープンハイスクール
- ・運動部員対象救急法講習夏期補習

8月

- ・学習合宿(2・3年)
- ・オープンハイスクール
- ・始業式

9月

- ・課題考査
- ・保護者進路研修会②

10月

- ・中間考査
- ・球技大会

11月

- ・県駅伝開会式
- ・県駅伝
- ・140周年記念事業

12月

- ・期末考査
- ・終業式
- ・学習合宿(1年)
- ・芸術鑑賞会
- ・保護者進路研修会③

1月

- ・始業式
- ・課題考査
- ・2年修学旅行
- ・センター試験
- ・卒業考査

2月

- ・校内長距離走大会
- ・推薦入試
- ・合格発表
- ・学年末考査
- ・69回卒業式

3月

- ・球技大会
- ・学力検査
- ・合格発表
- ・生徒総会
- ・終業式・合格者説明会

職員定数・現員数

平成 28 年 10 月 1 日現在

区分	本 務 職 員								非 常 勤 職 員							
	校 長	教 頭 及 び 教 諭	臨 時 講 師	養 護 教 諭	実 習 助 手	事 務 員	事 務 員	合 計	時 間 講 師	A L T	生 花・茶作法	学 校 医 等				
												内 科	耳 鼻 科	眼 科	歯 科	薬 劑 師
定 員	1	32	2	1	1	3	2	42	1	2	1	1	1	1	1	
現 員	1	32	2	1	1	3	2	42	12	1	2	1	1	1	1	

※教諭、実習助手、事務員欄の現員には、本定員臨任を含んで記載している

職員一覧表

職 名	氏 名	担当教科	校 務 分 掌		部 顧 問
			学 年	部	
校 長	岸田 吉明				
教 頭	樋口 一哉				
事 務 長	山口 直樹				
主幹教諭	竹中 浩二	理 科		○保 健	バレーボール (女)
主幹教諭	田野 浩	情 報	1年副主任・学年付		バレーボール, 空手道
教 諭	蘆田 典幸	英 語	3年副主任・2組		サッカー
教 諭	有田 きみ	英 語	事務局等長期研修		
教 諭	石元 真理	英 語	1年3組		文芸・アニメ, バレーボール
教 諭	磯井 真里	保健体育	2年学年付		ソフトテニス (女)
教 諭	桂川 晋	地歴公民	2年2組		剣道
教 諭	亀田まゆみ	地歴公民	○1学年		インターアクト, ソフトテニス, 卓球
教 諭	岸本 喜明	地歴公民	3年4組		硬式野球
教 諭	後藤 駿介	英 語	2年3組		バレーボール (男)
教 諭	近藤 和彦	保健体育		○生徒指導	陸上
教 諭	佐藤 英朗	国 語	○2学年		かるた, 吹奏楽
教 諭	篠谷 和彦	理 科		○進路指導	生物, 地学
教 諭	新川 祐二	地歴公民	○3学年		ソフトボール
教 諭	高田 英樹	数 学		教 務	写真, バスケットボール
教 諭	仲井 琢哉	理 科	3年学年付		ソフトテニス, 卓球, 陸上
教 諭	中西翔一郎	数 学	1年4組		ソフトテニス (男)
教 諭	中村 伴彰	理 科	1年1組		空手道
教 諭	仲山 聡子	英 語		進路指導	美術, 演劇
教 諭	西野 嘉高	数 学	3年1組		吹奏楽
教 諭	西本 智子	国 語	3年5組		放送

職 名	氏 名	担当教科	校 務 分 掌		部 顧 問
			学 年	部	
教 諭	西本 考宏	数 学	2年1組		卓球
教 諭	古川 昌彦	数 学		○教 務	硬式野球
教 諭	細見 明子	英 語	2年副主任・4組		生活文化, サッカー
教 諭	細見 将秀	保健体育		○総 務	バスケットボール
教 諭	正井 涼介	国 語		教 務	バスケットボール
教 諭	美濃 泰広	地歴公民		総 務	演劇, 軟式野球
教 諭	望月 香織	国 語		生徒指導	書道, インターアクト
教 諭	森本聡一郎	保健体育	1年2組		陸上
教 諭	吉竹美津子	家 庭	3年3組		生活文化, バスケットボール
養護教諭	牧野 裕美			保 健	生活文化, 剣道
臨時講師	原 渚	国 語	総 務		ソフトボール, 吹奏楽
臨時講師	廣田 昌幸	数 学		進路指導	軟式野球
臨時講師	波々伯部亮	英 語		生徒指導	合唱, サッカー
臨時実習助手	畑 咲江			総 務	放送, インターアクト
主 査	谷山 健一				
事務職員	中河のどか				
校 務 員	竹安 稔				
臨時校務員	岡崎 匡伯				
A L T	Tanaka Tomoyuki				
非常勤講師	山下 麗	国 語			
非常勤講師	足立 一勝	国 語			
非常勤講師	鹿田 結女	地歴公民			
非常勤講師	高見 馨	数 学			
非常勤講師	坂本 拓朗	数 学			
非常勤講師	畑 裕介	理 科			
非常勤講師	長井佑香里	保健体育			
非常勤講師	園田 尊子	音 楽			
非常勤講師	小林 笑子	書 道			
非常勤講師	笹本しずか	美 術			
非常勤講師	稲山 恒夫	英 語			
非常勤講師	藤原 正和	英 語			
生花講師	林 芳子				
茶作法講師	平野 和子				
学校医(内科)	小嶋 敏誠				
学校医(耳鼻科)	東谷 敏孝				
学校医(眼科)	大木谷信彰				
学校医(歯科)	多幡 秀隆				
学校薬剤師	中西 賢				

※校務分掌中の○印は主任を表示している

生徒諸君のすばらしさ

第17代校長

岡田

勝



県立篠山鳳鳴高等学校創立140周年、おめでとうございます。心よりお祝いを申し上げます。創立130周年を目前にした2年間、お世話になりました。県立篠山鳳鳴高等学校が連綿と歴史と伝統を刻まれている姿を心強く思っています。

心に残っておりますことを述べたいと思います。

ひとつは、赴任当時の同窓会会長西尾昭様が大学の先輩であり、温かく迎えていただいたことです。教職員、PTA会員、同窓会員の皆さまは心豊かな方ばかりで大変お世話になりました。

文化祭-3年生が「大きな古時計」を熱唱し、観客に大きな感動を与えました。その後、校長室にある大きな古時計を目にした1年生の女子が数名、照れながら同じ歌を口ずさんでくれました。ほのぼのとした気持ちになりました。

体育祭-男子組立体操で気迫の4段が成功しました。固唾を飲んで見守っていた私たちは安堵とともに万雷の拍手を贈りました。

軟式野球部夏の大会-鳳鳴チームが勝ちました。が勝利の校歌がなぜか球場に流れませんでした。期せずして選手たちが母校の栄誉を称えて大きな声で校歌を歌い、私も唱和しました。

県立篠山鳳鳴高等学校は文武両道を実践しています。文化部・運動部は力強く練習に励んでいます。学習面において、すばらしい大学進学実績を残しています。何事にも真摯に取り組む姿勢と心を備えています。私にとり、心に残る2年間でした。

立派な風土と精神を受け継ぐ、誇り高い学校です。

創立140周年記念に寄せて

第19代校長

片山 則 昭



創立140周年おめでとうございます。心よりお祝い申し上げます。

平成21年4月に着任したことがつい昨日のように思い出されます。着任後の最初の仕事は、毎年四月初旬に開催される青山神社例祭への出席でした。この時私は、篠山鳳鳴高校の歴史と責任の両方の重みを強く感じました。

僅か二年間の勤務でしたが、明るく誠実で前向きな生徒、それを支える理解ある保護者、情熱的に生徒に向き合う先生方、そして常に母校のことを考えておられる地域の皆様との出会いは有意義なものでした。この紙面をお借りして「感謝」とお礼を申し上げます。

生徒と一緒に校長室で語りながら食べた弁当の時間は忘れることのできないことの一つです。

また、姉妹校である大館鳳鳴高等学校が甲子園出場を果たした時のアルプススタンドでの友情応援は最高に晴れやかな気分でした。

人と人との関係が非常に難しい現在、未来を担う生徒たちには「忘己利他」の心で人と接することの大切さをここ篠山鳳鳴高校でしっかりと学び続けてほしいと願っています。

これまでも多くの素晴らしい人材を輩出してきた兵庫県立篠山鳳鳴高等学校、これからも伝統ある建学の精神の下、人のため、社会のために尽くす人材をさらに多く輩出されていくことをご祈念申し上げ、創立140周年記念に寄せてのお祝いの言葉といたします。

創立140周年に寄せて — 鳳鳴の「温故知新」 —

第20代校長 高25回
明 山 修



140年の歴史（温故）を振り返りますと三度^{みたび}廃校の危機がありました。その一は、私立篠山中学舎から多紀郡立となった公立篠山中学が、明治17年中学校設備規則発布によりやむなく廃校。この危機は、青山忠誠公が基金を募り、私財も投じ「私立鳳鳴義塾」と改称し中学校教育を維持し回避しました。

その後義塾は、明治32年私立尋常中学鳳鳴義塾と改称し発展してきましたが、大正時代の社会や経済の構造変化の中で、義塾経営は困難を極め二度目の廃校の危機に。この危機は、大正9年県立移管を実現、兵庫県立鳳鳴中学校となり回避しました。

三度目は、昭和20年8月15日の敗戦、連合国最高司令部の日本占領により、鳳鳴の「忠君愛国」「勤儉尚武」を教育の根幹とした教育・文化はすべてが否定されました。この時期校長職にあった人物が第11代校長奥山雄蔵氏です。氏は、昭和20年3月31日付で旧制柏原高等女学校から旧制鳳鳴中学校に着任、昭和23年10月31日付で新制洲本高等学校に転出するまで足かけ4年間在校し、戦争末期から敗戦時の混乱、占領下における旧制中学校の終焉、併設中学校の設置、昭和23年4月1日新制鳳鳴高等学校の設立、そして同年9月1日新制篠山女子高等学校との統合、「篠山高等学校」への校名変更を見届けた人です。新制高等学校2校の統合により「鳳鳴」の二^{ふたもじ}文字は歴史から消えました。

『創立八十周年記念誌』（昭和30年）奥山氏は回想に「篠高が篠山鳳鳴高校と改称される事を私の衷心の喜びとすると共に青山公の鳳鳴立学の精神が彌栄に發揮され新校風の下愈々校運の隆昌ならん事を希う」と記しています。

さらに、戦後十年間の苦難は、占領下末期昭和26年の生徒信条制定、激論を経た昭和30年の校名変更・新校歌制定という歴史的事実が物語っています。

四度目は、「少子」と学級減です。鳳鳴の募集定員は、平成21年に7学級から6学級に、平成23年に5学級に、平成27年に4学級に減じられました。「鳳鳴」が再び冠されてから60年、今日こそ国家有為・地域有為の人材育成の継続と学校存続という命題を解く、鳳鳴の「知新」が問われています。

母校と同窓会の益々の 発展を祈念して

洛鳳会会長 高9回
石 橋 一 男



母校創立140周年おめでとうございます。私が高校3年生の時に新しく出来た講堂で創立80周年記念式典が行われ当時の阪本勝兵庫県知事、新しく校歌の作詩をされた竹中郁氏の話聞いて早や60年、月、日のたつのは早いものと実感しています。時々同窓会の役員会で母校に行く事がありますが、少子高齢化の厳しい環境の中で元気に学ばれている生徒達を見てうれしく思います。私が高校卒業直後に英語の阪口市太郎先生が同志社大学のマンドリンクラブを夏休みの山陰演奏旅行の途中寄ってもらい新しく出来た講堂で演奏会を開催しました。

当時篠山にはまだ農大があり文化的雰囲気があり満員の聴衆の中でマンドリンオーケストラのデカンショ節の演奏で幕が開いた感動は今もはっきり覚えています。今母校のデカンショバンドが各会のオープニングで大活躍されているのを見て当時を思い出しました。

同窓会洛鳳会は歴史があり昭和31年に鳳鳴を出て京都で学ばれた4人の先輩の集まりが初めて60年を迎えました。2年に1回の開催になって来年は20回目を迎えます。洛鳳会は毎回場所を変えて開催しています。醍醐の桜、京都御所の見学、妙心寺等候補地が多く会場や交通の便を考えてどこにしようかと幹事は悩んでいます。

今回は平成の大修繕が終わった宇治平等院の近くの料理旅館「宇治川」で行いました。今どこの同窓会も同じ悩みをかかえていると思いますが若い世代の出席が少いという事です。一番若い世代で30回から35回卒業位でまだ現役で大変だと思いますが定年になってからはなかなか入りにくいと思います。洛鳳会でも数年前までこういう会があった事を全く知らなかったという人が今中心になって頑張ってもらっています。こちらの宣伝不足もありますが、各支部で同窓会をやっているという事を出席された方が同窓生に働きかけてもらいたいと思います。

来年は洛鳳会の総会年です。多数の参加を期待しています。

最後に母校と同窓会の益々の発展を祈念します。

母校時代の思い出

阪神支部長 高16回
藤田 弘道



母校の篠山鳳鳴高等学校が創立140周年を迎えたことを心よりお祝い申し上げたい。数年前に少子化という時代の波を受けて廃校となった母校の小学校と中学校のことを思うと、より一層その感を強くする。

同窓会阪神支部においても、この記念すべき年の6月12日、節目となる第20回大会（総会および懇親会）を開催し、前校長の明山修先生に「語りと映像による母校140年の歩み」と題して講演していただき、参加して下さった皆様に母校の歴史を知る機会を提供できてよかったと思っている。

私が入学したのは今から55年前の昭和36年4月、北堀端にあった木造校舎の時代で満開の桜を背景に記念撮影したことが印象に残っている。私たちは、終戦の年に生まれた者が中心で人数も少なく、入学定員の400名を下回っていて、競争意識も薄くのんびりした者が多く、絶えず先生たちから成績の悪さを指摘されていた。この年から普通科5クラスは平等編成で、英語と数学のみ成績によりクラス分けされ、入れ替えも学期毎に行われた。2年生からは、卒業後の進路により就職組と大学進学組に分けられ、私は大学進学を希望していたので後者の組となった。

1学期の終わる頃に実施された撰丹模試で、数学の成績が甚だしく悪かったことと物理がきわめて苦手だったので、両親に無理をいって私立大学を志望先とすることの許可をもらい、受験勉強は比較的得意であった英語、国語、日本史の3科目に絞って取り組んだ結果、3年生のときには少し余裕ができたので、所属していた地歴部の活動以外に、新聞部と軟式野球部にも手伝いに行き、たいへん充実した高校生活を送ることができた。嫌な（苦手な）ことはできるだけ避け、好きなことは徹底して行うという習慣（？）ができたのはこの高校時代で、今もそのことは変わらずに続いている。

母校の更なる飛翔を祈念しつつ。

母校創立140周年を迎えて

丹波市支部長 高22回
大江 幹雄



篠山鳳鳴高校創立140周年を迎え、おめでとうございます。歴史と伝統ある学校を卒業させてもらったこと嬉しく思っています。また、その節目の記念誌に寄稿させていただくこと、光栄に思います。が、複雑な気持ちでもあります。

それは、私が節目の記念誌に寄稿するなんてとんでもないことと思ったからです。私は卒業して（22回昭和45年卒業）46年も経つのですが、在学中を含めて現在まで母校に対して、役に立ったこともなかったし、また、なんら恩返しも出来ていないのが大きな理由です。また、今、頭の中はリオオリンピックの日本のメダルラッシュで、深夜までテレビの虜になってしまっているのも後押しています。

リオオリンピックと寄稿が頭の中で葛藤のなか、在学中の思い出がどんどん湧くように、よみがえっています。現在の校舎起工式で、足元が悪い山の斜面から、生徒全員が色とりどりの風船を飛ばしたこと。氷上郡（丹波市）から列車とバスを乗り継いでの通学。クラブ活動での苦楽。また当時の友達や先輩や先生の顔。質実剛健であれ。鳳鳴健児らしくあれ。一昔前の篠山の町並み。そしてデカンショ祭等々。私にとっては、素晴らしい思い出ばかりです。

その背景と人とのつながりの中、私は現在、同窓会の丹波市支部長を仰せつかっています。丹波支部は130周年の直後に誕生し丸9年になりました。まだまだ未熟な支部ですが、私の在学中、当時の氷上郡からの在校生は1年生の時で10名ちょっと、3年生の時でも30名ぐらいと記憶しています。先日、新しい同窓会名簿が手元に郵送され、拝見すると丹波市住所の同窓生は940名で驚くべき数で増えています。それと比例して輪も広がっています。

さらに調べてみると三田市はなんと1,334名です。次の150周年を迎えるまでには三田市支部の誕生を願い、そして同窓生の輪が益々、広がれば素晴らしいと思っています。

思い出雑感

高女34回
小島 さ 久



140周年。どれぐらいな長さか途惑いました。創立が明治の初めて其の時学んだ人は今はとおくなくなった江戸時代生まれであることから考え平成へ向けて年号順に歴史を辿り数えて見ますとなんと長い年月であることに驚き、併にその中の一点として私もあることに感慨を覚えました。

誇りある長い学校の歴史の中でも戦中戦後が学生であった私達の時代は一ぱん学校変革の大きな時であり、異常な学校生活だったのではないのでしょうか。

女学校でいえば4年制の後1年補習科があったのが廃止され戦後5年制になり間なく新制高等学校制度の発足で女子高校と鳳鳴の男子高校の統合、私達と一級下は5年女学生とし卒業をする者や一年進んで高校1年生2年生へととなった者とに分かれました。

他併設中学として女学校3年で卒業もありました。これらのことは主に戦後で、名簿の沿革の覧にも書かれています。戦時中の学校生活については私達体験した者が伝えておかねばと思ひ、ここに書かせていただきます。学業が主であるべき学校は、働き盛りの人が兵隊として行って終い人手の足りないのに加え増産だとの理由で勤労奉仕だ挺身隊だと農良仕事、山仕事又軍需工場へと学校の外へと働きに出て行っただけです。男子学校の方でも同じだったと思いますが、男子の教育は軍人になることが優先されていたのではないのでしょうか。海軍兵学校や陸軍士官学校へ入った人をエリートと羨しく眺め、少年航兵として年端もゆかない16、7歳で予科練生となって出て行っただけです。其の時代には、何の不思議も苦勞も考えず、只々思考が停止したように其の場に身を置いて居たのです。年を経て思いおこすとき、つくづく戦争は何も彼も狂わす恐しさが甦えって来ます。

楽しい思い出というか、もう知って居る人も少い思い出として、女学校の校庭の西にはその頃めずらしいスタンドがあり、又北堀の南駐車場になっている昔の鳳鳴中学運動場のまわりにポプラの並木が良い陰を作っていました。

後輩に期待する

高6回
谷田 治



高校を卒業して、早や60数年が過ぎ去った。長い年月のようでもあり、あっという間の出来事であったような気もする。しかし我が母校篠山鳳鳴高校が創立以来140年という記念すべき年を迎えるという何とも感慨無量のものがある。

ただこの経過の中で、当時わたし達の学んできた校舎は現在市の庁舎や田園交響ホールが建ちならぶあの位置にあった。

それは、城を中心にして、東側には篠山小学校、西側には篠山中学校、そして北側に篠山高等学校とまるで学園都市を思わせるような環境にあった。

それが一つには、国の重要文化財の指定地内であったり、校舎の老朽化と運動場の拡幅問題などで移転やむなきに至った経緯はあるものの、濠に浮ぶボートや桜並木を見ながら、学んだ人達にとっては一抹の寂しさがあったと思う。

さて、最近になってうれしい出来ごとの一つとして後輩の皆さんがデカンショバンドを結成し、その練習の成果を地元で開催されるイベントなどで発表され好評を得ていることである。

かつて第1高等学校（東大の前身）の寮歌のようにして唄われ、全国各地に広まっていったことを考えあわせれば母校鳳鳴から世界各国へ発信してほしいと心より願うものである。

故郷とデカンショ節 で繋がろう

高14回

山田良一



早いもので卒業してから54年が経ちました。合格発表直後に中学時代の先輩に誘われ音楽部に入部しました。中学校での小編成の合唱とは違い、80余名の大編成の4部合唱の歌声に圧倒され、感動したのを覚えています。卒業してからも、合唱や音楽活動を続けており、70歳を超えた今は男声合唱と童謡唱歌を楽しんでいます。

和楽器にも興味を持ち三味線を始めていましたが、故、谷井法童氏に「櫓の上では篠笛を」と言われて、指導を受け、昭和45年頃より毎年デカンショ祭で篠笛を吹くようになりました。

昔のデカンショ祭りは各学校や職場から、そして各地に出た人も帰省して家族そろって参加し、お城の南側市民グラウンドに入りきれない程踊りの輪が広まったものです。現在は市外からの来場者数は増えているものの、地元の方の参加が減っており、踊りの輪も小さくなりました。

「ヨーオイ ヨーオイ デッカンショー」で始まるデカンショ節。明治の中ごろ鳳鳴義塾出身の若者達が千葉の館山での合宿中に一高（現在の東大）生と歌合戦になり、篠山地方の民謡「みつ節」のはやし言葉が大いに受けてバンカラ調のデカンショ節が一高の愛唱歌として全国に広がったとされています。それが今の篠山のデカンショ節へと繋がります。

デカンショ節が日本遺産に登録されましたが、デカンショ節保存会では、デカンショ節を広めて行く事や後継者育成のためにどうするべきか試行錯誤しています。

母校で平成24年に『鳳鳴高校デカンショ隊（現在はバンド）』が立ち上がり、デカンショ節保存会から講師陣を派遣して一緒に練習をしています。

篠山を出て大きくなって帰ってきたデカンショ節のように、鳳鳴高校を卒業して進学・就職や生活をしている人達もまた篠山へ帰ってきて毎年一緒にデカンショを楽しんでもらいたいと願っています。

私の生きる道

高18回

梶谷郁雄



創立90周年の年に卒業して、早や50周年を迎えます。現在、同窓会の常任理事を拝命しているものの、何もできない自分が腹立たしい昨今です。

がしかし、私が今人生の中で一番忙しい毎日を送らせていただいているのは、やはり、楽しい、時には苦しい、充実した高校生活があったればこそと、感謝の気持ちでいっぱいです。

ご存知の通り、私達は団塊の世代のトップバッターと言われ、注目もされ、思い起こせば高校2年生の時に、東海道新幹線が開通し、東京オリンピックが開催され、歌手舟木一夫が「高校3年生」をヒットさせたり、勉強は少々苦手でも、体育祭ではトップクラスに常にいるような感じで、2年生の時には、軟式野球部に所属しているクラスメイトがエースナンバーを背負い、第9回の全国高校軟式野球大会に見事出場、広島市商に3：4と惜敗したこともついこの前のように思い出されます。

私は、卒業後すぐに城東町役場に奉職、総務、住民、建設、ガス水道、下水道、まちづくり対策、交響ホール、支所部門等々、途中、昭和50年に篠山町平成11年に篠山市へと合併を繰り返して、色々勉強させていただき、40年の公務員生活に終止符を打ち、あとは悠々自適な百姓生活を目論んでいましたが、すぐに集落の自治会長、間もなく地域にまちづくり協議会が設立され委員に、後にまち協事務局長、小学校が閉校というかってない経験をし、4年後にまち協会会長、併せて地域の自治会長会会長まで、現在現職中。

さらに、昭和45年の「大阪万博」をきっかけに活動を始めた「デカンショ節保存会」長年事務局長を務めて、今は保存会60周年記念誌担当副会長に推薦され、残りの人生は、「ふるさと・丹波篠山・デカンショ節」と併せて、ふるさと「くもべ」の繁栄を願っての恩返しあるのみ。これが、私の生きる道です。

無理をせず、手を抜き、足を抜き頑張る所存であります。

篠山鳳鳴高校のますますのご隆盛をご記念申し上げ寄稿文といたします。

母校創立140周年によせて

高20回

長澤 洋一郎



140周年おめでとうございます。

思えば卒業して何年か後、鳳鳴創立100周年の話聞いた時、わが母校ながら100年も続いている学校があることに新鮮に驚いたことを思い出します。

それからもう40年、年齢とともに時間の感覚も変わってくるのを感じます。

遅刻しそうになりながら自転車を走らせた砂利道、卒業後一度も訪れることができなかつた木造校舎、今でも鮮明に浮かびます。

縁あって数年前PTAの仕事をやらせていただいたとき、同窓会長や校長先生も私がOBであることをご存知なく、ちょっとした学歴詐称事件の発生？もありました。

その真実は、長年連絡もせず疎遠になっていたため同窓会名簿に掲載されていなかったのです。所在不明者の欄に名前を見つけ、誤解も氷解し、笑い話になりましたが…。

本年、我々第20回卒業生は、卒業後48年目にして初めて学年同窓会を開催することができ、約90名の出席を得て、久しぶりの再会に年月を忘れ楽しい時間を過ごすことができました。

今回案内役を引受け、同窓生の消息を確認したところ、改めて連絡の取れない方が多いのに驚きました。案内状をお送りできなかった皆さんには大変申し訳なく思います。

どこかでこれをご覧になった方はぜひご連絡をお願いします。

再来年、卒業50周年記念同窓会を開催することになりました。その時には全員元気で会いたいと思います。

鳳鳴の名の下で共に過ごした諸先輩、そして後輩の皆さんにそれぞれ感謝を申し上げ、140周年の記念の年を一つのステップとしてともに集い、次の150年、さらに永遠に続く鳳鳴の未来を我々の元気で支えていくようではありませんか。

母校9年間の思い出

高20回

久下 隆史



創立140周年おめでとうございます。母校には生徒の3年間と教員で6年間お世話になりました。昭和40年からの生徒時代は、北堀近くの旧校舎で青春を十分楽しみましたが、それ以上に勉強に苦しめられました。特に撰丹模試は、中々点が取れませんでした。職員室の前に貼り出された成績の中には100点の者がいました。出来る者はできると思いましたが、それは自分の力の限界を認識することでもありました。ところが、このことが、教師になって大変役立ちました。勉強に苦しむ生徒の気持ちがよく分かったからです。昭和59年に母校に異動してからの6年間は、私学文系と就職希望者のクラス担任を自ら求めてしました。他の先生方には迷惑をかけましたが、「朝陽通信」を出して情報をこまめに提供し多様な生徒の進路指導に努めました。

高校時代の3年間の思い出といえば、昭和41年度の創立90周年記念式典と地歴部の活動でした。創立90周年の記念誌と記念品の立杭焼のコップは今も大切にしています。この年度の地歴部の研究テーマは「多紀郡内の神社の研究」でした。この成果を文化祭と機関誌『ふるさとの研究』3号で発表しました。地歴部には部室がありませんでしたが、本館2階の郷土資料室によく出入りしました。ここには、古めかしい鎧兜や青山文庫の一部が展示されていました。鳳鳴高校に異動した時、事務室にお願いしてケースを買ってもらい、社会科準備室で分散した資料の整理をしました。昭和63年度の文化祭で、社会科・国語科共催で「福原会下山人コレクション・篠山鳳鳴高等学校所蔵文書と青山記念文庫所蔵本の展示」という企画展をしたのもよき思い出です。

今は校内の諸資料も整理され、立派な展示室に青山文庫とともに収蔵されています。こうした資料を学校教育や生涯学習で活用できればと思います。

心のふる里 鳳鳴高校と共に

高26回

瀬戸 まり子



この度は、鳳鳴高等学校140周年誠にありがとうございます。また意義深き記念誌に寄稿の機会を頂き大変ありがとうございます。私自身、長く学年理事の任を頂き、副会長、会計監査と経験させて頂いた事は同窓会との関わりも浅からずと思い返し感謝の思いでお受けした次第です。

私達26回生は高校三年の年に大熊の新校舎への移転を余議なくされました。当時では最新のコンクリート打ちっ放しの新校舎。ところが美的感覚乏しい私の目には塗装前で建築途中の建物にしか見えず…。二年間過ごした木造の旧校舎を懐かしく思っていた私にとっては、高校生活最後の年の校舎移転は本当に残念な事でした。

移転の為、三年生男子は荷車を引いて書物や備品等の搬入を手伝いました。この事が後年開催した私達の同窓会に来賓として来られていた上田洋行校長の耳に入りました。手伝いをした男子生徒の記憶から、永く倉庫の片隅で眠っていた、松平家の家紋入りの瓦や貴重な品々の所在が明らかになりました。この事は地方紙にも大きく紹介される快挙となり、私の中の残念感を少なからず払拭できた出来事になりました。

度々役員会に出席した中で、卒業30周年には学校への寄付が慣例となっていた事も知りました。ところが、阪神淡路大震災以降その寄付も止まったままの状態であるのも併せて知るところになりました。丁度私達の30周年同窓会に向け度々会合を持っておりまして、在校生への支援の為に寄付の提案をしてみました。賛否両論様々な意見が飛び交った末、『何か、明確な使い道を提示して貰いたい。』との意見を同窓会へ伝えました。『鳳凰賞』『皆勤賞』を設けその表彰金に充当しますとの回答を受け、晴れて卒業生としての記念行事の一つを復活させる事が出来ました。今ある二つの賞が出来たのもこんな経緯ですが、26回生の思いをこのような形で継承して頂ける事を大変嬉しく思います。

私達の生まれた昭和30年は校名が『兵庫県立篠山鳳鳴高等学校』と改名された年でもあります。そこに在籍したことに縁を感じます。新入生として入学した当時の雛鳳も今年で全員が還暦を迎えました。過ぎた年月に啞然としますが、これからも母校の発展を祈念し、又校名と共に善き歳月を重ねて行きたいと思えます。

鳳鳴に感謝!! そして期待する事!!

高39回

岩本 和也



篠山鳳鳴高校の創立140周年おめでとうございます。

高校受験の際には両親も鳳鳴出身ということもあり、迷わず鳳鳴高校を受験しました。というより、父からは「鳳鳴1校しか受けささん!」と言われていたのでお尻に火がついた思いでした。入学と同時にサッカー部に入り3年生の引退まで毎日グラウンドでボールを追い続けた事が一番の思い出です。勉強もせずサッカーばかりしていたため引退後ポツカリと心に穴が空き、学生の本分を見失っていた私は2年、3年の担任、久下隆史先生に、大変お世話になりました。現在篠山市が主催するユネスコ創造都市推進委員会で委員として先生と同席するとは夢にも思っておりませんでした。

卒業後、辻学園日本調理師専門学校へ進み小学生の頃からの夢であった料理人になりました。大阪での修業後、家業のいわやを継ぐべく呼び戻され現在に至っております。結婚して子宝にも恵まれ、その息子達も鳳鳴に進学し長男が3年生の時にはPTA会長を仰せつかりました。私の人生の中で貴重な誇るべき経験をさせていただきました。

現在、全国飲食業生活衛生同業組合連合会、青年部会長を務めているため、会議や研修会で全国を廻ります。その際特に先輩会員さんからは「篠山でしたら鳳鳴出身ですか?」と聞かれる事も度々です。我が母校の全国に轟く伝統と偉大な先輩方に感謝をし、これからも篠山を愛する市民の一人として食の世界から篠山や母校の素晴らしさを発信し続けたいと思います。最後に少子化や他校への流出のため生徒が減り続けております。勉強も大事ですが地元愛を持つ生徒を育てるのも鳳鳴の役割りの様に思います。どこにでもある普通校ではなく独自性のある人材育成こそが本来の鳳鳴の姿であってほしいと思います。

へ丹波与作は馬追いなれど

今じゃお江戸で日本差し

～140周年の 歴史に寄せて…～

平成21年度PTA会長
本 莊 賀寿美



140年の歴史の一齣に、わたくしが関わることができましたこと、誠に光栄に思い、とても名誉なことと、月日を重ねた今尚、感じるばかりです。

平成21年度 第133代PTA会長を、卒業生でないわたくしが担わせていただきました。鳳鳴高等学校のことは、夫が卒業生で、娘が在籍をしておりましたが、知る範囲は狭く、何も知らないことの方が多かったと思います。振り返りますと、クラス数が減少に伴い、保護者数も減り、役員を従来通りに擁立することが難しい現状がありました。少しでも軽減しつつ、よりよい活動や繋がりを図りたいと考え、地区別懇談会を、参観日を活用し学校で実施をし、時間の効率化に努めました。また、次期に向けての役員予定者を決めるなど、過去にない取り組みではありましたが、進めることができました。それは、当時の片山則昭校長先生をはじめ、先生方やPTAの役員の皆様や保護者の皆様の多大なる協力のおかげ様で、遂行できたと感謝の気持ち一杯でございます。

PTA活動は、文化祭への合唱、研究大会での発表、淡路島モンキーセンターへの慰問、各大学の訪問等、参加型の活動も活発にあり、わたくし自身も学び多き1年でした。

鳳鳴高等学校の「鳳鳴坂」を登り、振り返りますと、篠山の町並みがあり、田園風景と山並みが一望できる環境の中にある学び舎。ここから、たくさんの『篠山人(ひと)』が生まれ、各分野で活躍をされています。これからも末永く続いて行かれますように、ご祈念申し上げます。

140年で培われた 良きものを活かして

平成27年度PTA会長
神 明 宏



篠山鳳鳴高等学校創立140周年を迎えられましたことを心よりお祝い申し上げます。三つの世紀、四つの元号の時代に渡り、ふるさと篠山で学校教育がなされてきたことは、創立より今日に至るまでご尽力されたすべての方々が成し遂げた偉業の実と感じています。その140年の歴史や歩みに思いを馳せるとそこに深遠なものを見る思いです。

私は平成27年度にPTAの役員として関わらせていただきましたが、篠山で生まれ育ったわけでもなく、卒業生でもありませんでした。そのような者が兵庫県下で最も歴史のある公立高校のPTA会長となって良いものだろうか、随分悩みました。そのような状況でしたが、幸いにも、良い役員さんに恵まれ、学校長、教職員、事務局、PTA会員など、皆様に助け頂いて、その任を務めさせて頂き、感謝をしています。

1年の任期の中で、篠山鳳鳴高校の歩みに関わらせて頂いたことの中で感じたことがありました。一つは、決して短い期間では築くことのできない歴史の中で培われた「伝統・遺産」です。もう一つは学校関係者の皆様方を初めとして、卒業生、そして、篠山の皆様方の篠山鳳鳴高校と生徒たちへの「愛情」です。多くの方々に愛され、応援して頂いていることを感じました。一步一步の学校の歴史、この丹波篠山という地域社会に根ざし、長きに渡る時代を経ながら磨き上げられた数々の造詣の元で、鳳鳴生が篠山鳳鳴高校で学ぶ幸いと意義があるように思いました。

十代後半は学ぶ力やいろいろな可能性に満ちていると思います。これから先、新しい歴史が刻まれていく中で、ここで学ぶ鳳鳴生に豊かな人格、資質、能力が生まれ、良い幸いな人生を日々歩んでいきますように、また「地の塩、世の光」となって共に生きる人々、地域、国々にとって幸いをもたらす人々が育まれていきますようにお祈りしています。

篠山鳳鳴高等学校の益々のご発展と、皆様方の幸を願いつつ、お祝い申し上げます。

夢

高67回生

岸田真紘



篠山鳳鳴高校、創立140周年おめでとうございます。一昨年鳳鳴高校を卒業し、学校の先生を目指して広島大学で日々勉強に、サークルに、バイトに励んでいます。今でもしばしば鳳鳴高校で過ごした3年間のことを思い出します。

私の将来の夢は学校の先生になることなのですが、実は本気で先生になりたいと思うようになったのは、高校でのたくさんの人との出会いのおかげです。まず、大切な友達に出会うことができました。一緒に笑い、互いに協力し、勉強では切磋琢磨し合って、共に受験も支え合い乗り越えられた友達。青春時代に素晴らしい友達に出会うことができたからこそ、学校が楽しいと思え、そんな学校づくりをしていく先生という職業に魅力を感じているのだと思います。

また、高校では先生方に本当にお世話になりました。私は小さい頃は勉強が好きでしたが、学年が上がるにつれて内容も難しくなり、いつしか勉強は「辛いもの」になっていました。そんな私でしたが、いろいろな先生に個人的に質問に行き、「なんでこの公式に代入したの?」「なんでこの答えは違うの?」と、問題集の解説には書いていない部分までひとつひとつ丁寧に教えてもらううちに、分かる楽しさ、勉強の楽しさにもう一度気づくことができました。この経験から気づいたのは、『「苦手」を「得意」にするのは難しい、でも「嫌い」を「好き」に変えることはできる』ということです。これは勉強以外にも当てはまるのではないのでしょうか。私は恩師のような、生徒の「好き」を増やしていくサポートができるような先生になりたいと思っています。

みなさんの夢はなんですか?それを熱く語ることができますか?私は高校3年間のかけがえのないたくさんの出会いの中で、自分の夢を見つけ、それに向かって進んでいく力を得ることができました。これからも鳳鳴高校がみなさんの青春時代を彩り、望む将来へと背中を押してくれる場所であり続けることを祈っています。





創立140周年によせて

前生徒会長 中尾 拓斗

兵庫県立篠山鳳鳴高校が140周年を迎えられましたこと、心よりお祝い申し上げます。県下随一の伝統を誇る鳳鳴高校の節目の年に、生徒会長として立ち会えましたことを大変うれしく思います。

私が三年間を過ごす中で鳳鳴高校の良さとして感じたこととしてまず一番に、卒業された先輩方や、地域の方々からも愛され、見守られているということです。総合的な学習の時間に地域伝統文化・芸能について学んだ際には、地域の方から篠山の歴史や文化についてのお話を聞かせていただきました。その講師の先生は鳳鳴高校を卒業された方で、お話の最後には私たちを暖かく激励してくださり、鳳鳴高校の伝統の暖かさを感じました。また日本遺産に登録され話題にもなった「デカンショ節」を演奏するデカンショバンドの活動にも地域の方に講師として練習に来てもらいご指導をいただき、また登下校の際には地域の方に暖かなあいさつを交わしていただき、日々の生活の中でもたくさんの方からの寵愛を受けているのだと実感します。こうして、常日頃からたくさんの方々の地域の方々からご支援をいただけているのは、伝統と共に受け継がれてきた鳳鳴生像があるからだ実感します。

これまでの先輩方がそうであったように私たち在校生も、長い歴史の中で築き上げられ守られてきた、勉強にも部活動にも真剣に取り組み、そして多くの方々から応援していただけるような「鳳鳴健児」の一人である。ということに誇りと責任を持ち、私たちの後輩となる未来の鳳鳴生が何十年先でもこれまで同様に、たくさんの方々に見守られ愛されるよう、この大きな節目の年に改めて伝統を守り継承していくことの大切さを受け止めていきたいと思ひます。また、次の150周年やその先の世代においても新たな歴史が刻まれ、篠山と共に益々活気あふれていくことを願ひ、寄稿文の挨拶とさせていただきます。



創立140周年を迎えて

生徒会長 小川 美優

本校は、今年で創立140周年を迎えました。このような大きな節目の年を在校生として迎えることができ、大変喜ばしく思ひます。

140周年と言ひましてもどれほどの数字なのか私には想像もつきません。しかし私たちの“父や母の世代”、さらには“祖父母の世代”からも愛される学校であると聞くと、その伝統の重さを感じることが出来ます。私たちも伝統を受け継ぎ、さらには、150周年、160周年と歴史が刻まれる学校であつてほしいと思ひます。また、本校はたくさんの方々の支えがあつたからこそ、今があることを忘れることはできません。素晴らしい伝統を築き、受け継がれてこられた先輩方や、熱くご指導してくださる先生方、温かく見守り、ご支援してくださる地域の方々感謝申し上げます。

篠山鳳鳴高校には、仲間との絆を育むことができる素晴らしい場がたくさんあります。

第一に、勉強の場です。難解な学習課題にも仲間と助け合い挑戦し、時には競い合うことで、互いの夢に向かって高め合えます。第二に、部活動の場です。目標に向かって切磋琢磨することで、嬉しいことも悲しいことも仲間とともに共有し、生涯に渡つて大切にしたいかけがえないものを手に入られます。そして第三に、鳳鳴祭や球技大会といった行事の場において学年を問わず交流し、楽しむことを通して学校全体が一つになります。

本校がこれからも、一生大切にしたいと思う仲間がたくさんできる場でありまうように。

多くの人々が出会い、ともに青春を過ごす場でありまうように。

今日まで受け継がれてきたこの篠山鳳鳴高校の伝統を次世代へと継承し、新たな伝統を築き上げていくことを誓ひ、生徒代表の挨拶といたします。

同窓会 この10年

1 歴代会長

西尾 昭（平成14年度～平成19年度）
畑 俊三（平成20年度～平成25年度）
熊谷 満（平成26年度～）

2 主な同窓会活動

- ◇母校創立周年記念事業に協賛
- ◇同窓会名簿発行
- ◇年度総会開催
- ◇会報の発行

3 支部活動

阪神支部

- 昭和54年、大阪キャッスルホテルにて第1回大会、翌年、新阪急ホテルにて第2回大会を開催。以降は一年おきに大会を開いている。
- ◇平成20年6月8日、ホテルグランヴィア大阪において第16回大会を開催。大会終了後、山内卓支部長（高5回）より引退表明があり、平成21年1月より藤田弘道（高16回）に次期支部長を引き継ぐ。
 - ◇平成22年6月6日、ホテルグランヴィア大阪にて第17回大会を開催。参加者141名。
 - ◇平成24年6月10日、ホテルグランヴィア大阪にて第18回大会を開催。
 - ◇平成26年3月26日、加東市の東条バイナレーゴルフクラブにおいて、第6回ゴルフコンペを開催、24名が集結。
 - ◇平成26年6月15日、ホテルグランヴィア大阪にて第19回大会を開催。懇親会アトラクション「シャンソンとベルカントのひととき」、谷田君代さん（女併2回）と山村弘美さん（高13回）出演。
 - ◇平成28年6月12日、ホテルグランヴィア大阪において第20回大会を開催。

洛鳳会

- 「歓談だけでなく文化の涵養と多紀郡出身者の交流」を旗印に、二年に一度の定期総会を開催している。
- ◇平成21年7月11日の総会は、西本願寺聞法会館にて開催し90人超の出席を得る。矢野貢会長（鳳中61回）が今総会を以て引退を表明、後任に石橋一男（高9回）が引き継ぐ。総会終了後、浄土真宗西本願寺の江口布教使より「むなしくない人生」と題して法話をいただく。また、平成の大修復工事が完成した「御影堂」など、世界文化遺産に登録されている歴史的建造物などを見学した。
 - ◇平成23年7月9日、洛鳳会創立55周年を迎え、第17回記念総会を開催。記念事業として、「会旗の新調」と「ふるさと応援記念講演会」及び「シンポジウム」を行う。今回より、洛鳳会の総会は、京都産高会（篠山産業高校同窓会）と合同の「京都篠山会」として行っている。
 - ◇平成25年9月21日、新都ホテルにて第18回洛鳳会総会開催。阪神支部長でもある藤田

弘道氏（高16回・大阪学院大学教授）より「東寺と大山荘」と題して講演。120名の参加を得る。懇親会終了後、京都の風物詩「弘法市」と東寺の世界遺産を見学。

- ◇平成27年9月12日、京都宇治 料理旅館「宇治川」にて第19回洛鳳会総会開催。90名の参加を得る。中西健治さん（高18回・立命館大学特任教授）に「源氏物語の宇治」と題して講演をいただく。また、2人の現役大学生の参加があり、大きな拍手で迎えらる。
- ◇その他、8月、12月を除く毎月第2土曜に自由参加の例会を開催している。

東海支部

- 東海支部では、3～4年に一回程度の総会を開催している。
- ◇平成20年11月3日、名鉄グランドホテルにて総会を開催。参加者総勢31名。
 - ◇平成22年3月13日、「科学技術学園高校豊田校（トヨタ工業学園）」、「豊田大谷高校」との本校硬式野球部練習試合を計画実現。多数の同窓会東海支部メンバーが応援に駆けつける。

関東支部

- 平成21年度現在、会員数は約1,000人。鎌田紀彦支部長（高9回）のもと、総会を2年に1回開催することとしている。
- ◇平成21年6月28日、明治記念会館において、第7回支部総会・懇親会を開催。総勢90名が参加。丹波猿楽がルーツの能楽を鑑賞。
 - ◇平成21年6月7日、東京鳳鳴会（秋田県立大館鳳鳴高校東京同窓会）から招待を受け、『世代を超えて皆で語ろう同窓会』と銘打ち、以後、毎年親交を深め合っている。
 - ◇平成25年6月23日、大宮八幡宮で第9回総会・懇親会を開催。現役学生（高62～65回卒業）9人の参加があり、会場は大いに盛り上がる。
 - ◇その他、丹波篠山観光協会等からの観光案内、各種パンフレット類の配布により、ふるさと篠山のPRにも努め、会員相互の親睦を図っている。

丹波市支部

- ◇平成21年9月26日、ゆめタウンポップアップホールにおいて、会員や来賓合わせて90人の出席を得て丹波市支部総会を開催、大江幹雄（高22回）を支部長に任命し「篠山鳳鳴同窓会丹波市支部」として阪神、関東、洛鳳会、東海の各支部に続く5番目の支部誕生となる。
- ◇平成23年3月7日、ゆめタウンポップアップホールにおいて第2回総会を開催。同窓生、来賓等約50名が出席。
- ◇平成25年6月29日、ゆめタウンポップアップホールにおいて第3回総会を開催。同窓生、来賓等約45名が出席。
- ◇平成28年9月11日、ゆめタウンポップアップホールにおいて第4回総会を開催。同窓生、来賓等約30名が出席。

PTA この10年

PTAとして、篠山鳳鳴高校教育水準の向上と会員の福祉の増進を図るため、地域との交流や国際交流活動、地区別懇談会、通学指導、文化祭や体育祭への参加、人権学習セミナー、講演会、会報誌発行等実施し、学校・地域・家庭の相互理解を深めることで地域の教育向上に努力してきました。

1 役員・組織の改変

年々、会員数の減少傾向にある中、適正にPTA活動を維持するため、平成26年度より「地域・国際交流部」「進路指導・学年部」「人権教育部」「文化体育部」「生活指導部」「広報部」の6部を「研修交流部」「文化・指導部」「広報部」の3部に集約し組織の改変を行った。

2 体育祭への参加

体育祭を観るため、多数の保護者が車で来校される。そんな中、教職員と協力して、校内での車の誘導、駐車場整理を行っている。また、文化体育部（現文化・指導部）の計画により、PTA相互の親睦を図る目的で競技へも参加している。また、人権教育部（現研修交流部）によるチャリティバザーで得た売上金を篠山市社会福祉協議会の善意銀行や災害義援金として寄贈している。

3 文化祭への参加

平成23年度まではPTAコーラスとして文化祭への参加を続けてきたが、24年度以降は休止状態となり、チャリティーバザーや模擬店の開店、巡回指導などの支援活動に専念する形となっている。また、合唱コンクールの審査員として参加するなど、文化祭へ積極的に関わりをもつように努めている。

5 研修旅行

平成2年から始まった研修旅行は、当初は多数の参加を得て実施されてきたが、年々、参加者の数も減少し、平成24年度からは計画を休止、現在年度まで至っていない。

7 デカンショ祭競演会への参加

丹波篠山の伝統文化に触れ、地域最大級のイベントである丹波篠山デカンショ祭を盛り上げるべく、生徒・保護者・同窓生・教職員らで「篠山鳳鳴高等学校連」を組み、競演会、総踊りに参加している。

8 地域・国際交流セミナー

国際化時代とともに、本校でも年々、交際交

流の機会が増えてきている。そこで、地域・国際交流セミナーを開催し、生徒の国際交流の体験発表の機会を作るとともに、国際交流・環境・生活・情報等のセミナーや講演会を企画している。会員だけでなく、地域の人たちへも広く参加を呼びかけ、地域交流の場を提供するという役割も果たしている。

9 交通・生活指導

生活指導部（現文化・指導部）を中心に、篠山市内祭礼での生活指導や列車通学指導を行い、春と秋の年2回、PTA会員全員による当番制にて、交通指導も行っている。

10 あいさつ運動

コミュニケーションの第一歩といわれるあいさつを習慣づけるため、PTA会員全員の順番制であいさつ運動を実施している。

11 会報誌発行

学校と家庭と地域のそれぞれの役割と立場を明確にしながら連携の強化を図ろうと、PTA活動や学校内の行事、クラブ活動等での生徒たちのいきいきとした姿を紹介している。これまで年3回の発行であったが、平成22年度より年2回に集約し、誌面の充実を図っている。

歴代PTA会長名簿

年度	会長名
平成19年度	長澤 洋一郎
平成20年度	平山 照秋
平成21年度	本庄 賀寿美
平成22年度	藤本 清仁
平成23年度	下田 義祥
平成24年度	高家 徹
平成25年度	岩本 和也
平成26年度	岡 浩也
平成27年度	神明 宏
平成28年度	大原 基義

創立140周年記念事業一覧

●記念式典 於 たんば田園交響ホール

平成28年11月12日(土)

アトラクション

篠山鳳鳴デカンショバンド演奏

記念式典

記念講演

講師 二十六代青山家当主

青山 忠靖 氏

演題 「創設者 青山忠誠公について」

●祝賀会 鳳鳴のつどい

於 ユニピアささやま

平成28年11月12日(土)

アトラクション

馬場 清孝 氏(高34回)テノールライブ

祝 宴

●記念事業 於 鳳鳴高校体育館及びグラウンド

平成28年11月13日(日)

■記念シンポジウム

基調講演

講師 内閣府政策統括部

山脇 良雄 氏(高30回)

演題 「グローバル時代における
ローカルの挑戦」

意見交換会 - 現役鳳鳴生を交えて -

ゲスト 丹波古陶館・能楽資料館 館長

中西 薫 氏(高30回)

■秋田県立大館鳳鳴高等学校硬式野球部との交流試合

オープニングセレモニー

交流試合

●記念制作物

創立140周年横断幕

創立140周年記念誌

創立140周年記念DVD

記念式典式次第

清 興

篠山鳳鳴デカンショバンド

- 1 開式の辞
- 2 国歌斉唱
- 3 学校長式辞
- 4 兵庫県教育委員会挨拶
- 5 来賓祝辞
- 6 来賓紹介
- 7 祝詞・祝電披露
- 8 生徒代表喜びのことば
- 9 校歌斉唱
- 10 閉式の辞

創立140周年記念誌

発行日 平成28年11月12日
発行者 兵庫県立篠山鳳鳴高等学校
創立140周年記念事業実行委員会
〒669-2318 兵庫県篠山市大熊 369
TEL 079-552-0047/FAX 079-552-0653
篠山鳳鳴同窓会
TEL&FAX 079-554-2533
印刷・製本 株式会社 プリテック